

信州大学医学部保健学科
平成 28 年度
夏期海外研修プログラム実施報告書



2016

平成 28 年 11 月 20 日
信州大学医学部保健学科

信州大学医学部保健学科

平成 28 年度夏期海外研修プログラム実施報告書

編集：信州大学医学部保健学科 国際交流委員会

委員長： 石田 文宏 (検査技術科学専攻)

委員： Ah-Cheng GOH (理学療法学専攻)

青木 薫 (理学療法学専攻)

奥野 ひろみ (看護学専攻)

奥村 伸生 (検査技術科学専攻)

杉山 暢宏 (作業療法学専攻)

山崎 明美 (看護学専攻)

山崎 浩司 (看護学専攻)

事務部： 丸山 恵 (学務第二)

川船 圭介 (学務第二)

I. 学術交流にあたって	・ ・ ・ ・ ・ 1
1. 学科長のことば	
2. 同窓会長のことば	
II. 学術交流の概要	・ ・ ・ ・ ・ 3
III. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要	・ ・ ・ ・ ・ 6
IV. 信州大学-Curtin University	
大学間学術交流協定に基づく夏期海外単位認定プログラム	・ ・ ・ ・ ・ 8
1. カーティン大学の概要	・ ・ ・ ・ ・ 9
2. 夏期海外単位認定プログラム	・ ・ ・ ・ 10
3. 研修プログラム詳細	・ ・ ・ ・ 14
4. 学生アンケート	・ ・ ・ ・ 20
5. 学生レポート	・ ・ ・ ・ 28
V. 信州大学—シンガポール	
夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム	・ ・ ・ ・ 32
1. シンガポール国の概要	・ ・ ・ ・ 33
2. 保健医療スタディツアープログラムの概要	・ ・ ・ ・ 34
3. 研修プログラムの詳細	・ ・ ・ ・ 35
4. 学生アンケート	・ ・ ・ ・ 41
5. 学生レポート	・ ・ ・ ・ 49
VI. 信州大学—ネパール	
夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム	・ ・ ・ ・ 52
1. ネパール国の概要	・ ・ ・ ・ 53
2. 保健医療スタディツアープログラムの概要	・ ・ ・ ・ 54
3. 研修プログラムの詳細	・ ・ ・ ・ 55
4. 学生アンケート	・ ・ ・ ・ 59
5. 学生レポート	・ ・ ・ ・ 62

(編集後記に代えて)

I. 学術交流にあたって

1. 学科長のことば

信州大学医学部保健学科長 金井 誠



保健学科長
金井 誠

信州大学医学部保健学科では、国際交流委員会が中心となって、学術・教育面での国際交流推進に向けて取り組んでおり、本年度は3つの短期夏季海外留学プログラムを実施しました。

Australia Curtin University 夏期海外単位認定プログラムには看護学専攻3名、検査技術科学専攻4名、理学療法学専攻3名の計10名の学生が、Singapore General Hospital PTE LTD (Sing Health) 保健医療スタディプログラムには看護学専攻3名、検査技術科学専攻8名、理学療法学専攻3名の計14名の学生が、Nepal 保健医療スタディプログラムには看護学専攻1名、理学療法学専攻1名の計2名の学生が参加し、総計で26名の学生が短期海外留学を経験いたしました。

帰国後のアンケートをみますと、参加者の殆どが、多くの刺激を受けて充実した短期留学を終えたことが窺えます。この体験で得た感性や知識が今後の学生生活、社会人生活で有意義に活かされるよう期待しています。また本年度は本学理学療法学専攻の卒業生で、日本での勤務を経た後、国際的なキャリア形成のためにカーティン大学で理学療法学を学び直している先輩をお招きし、オープンミーティング等の開催を計画しています。本プログラム参加者だけでなく、大学院生を含めた多くの学生に参加していただき、国際的な視野を広げていただきたいと思います。

本プログラムの運営には、カーティン大学をはじめとする留学先との事前交渉、プログラムの作成、学生へのプログラムの紹介、航空券の確保と準備、支援金の確保、渡航中の学生の安全確保等のために多くの教職員が関わっています。また帯同教員不在中は学部の秋期に向けての準備時期にあたるため、在松の教職員の協力が不可欠です。関係した教職員の方々にこの場をお借りし感謝いたします。

また本年度も参加学生に対しては、日本学生支援機構の海外留学支援制度の採択を受けての援助をいただくとともに、本学からも「知の森基金を活用したグローバル人材育成のための学生への短期海外活動支援」、「信州大学次世代戦略プロジェクト」より、参加学生および本プロジェクトに帯同する教員の渡航費用の一部等にご援助をいただきました。加えて同窓会の基金からもご援助いただきました。ご配慮くださいました信州大学本部役員の皆様ならびに信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。

2. 夏季海外研修プログラムを同窓会は支援し続けます！

保健学科同窓会長 川上由行(信州大学名誉教授・医学部特任教授)

平成 28 年度夏季海外研修プログラムは、今年 8 月 6 日から 10 名が参加した「カーティン大学短期プログラム」に始まり、14 名が参加して 8 月 28 日に最終日を迎えた「シンガポール保健医療スタディーツアープログラム」まで、総てのスケジュールを滞りなく遂行して無事に終了することが出来ました。そして、参加した延べ 24 名の学生はそれぞれ貴重な体験をして引率教員と共に全員が元気に帰国しました。

本年度のプログラムを体験した学生は、どちらのコースでも、異文化に触れることにより、今後の学業に対するモチベーションの向上のみならず、また自身のこれからの生き方にも大きな触発をもたらしたことと思います。また、特にカーティン大学研修プログラムでホームステイを体験した学生の殆どは、終日を英語漬けの環境の中で過ごすことが出来た日々を満喫して、語学力の必要性和大切さを身体で感じたことでしょう。

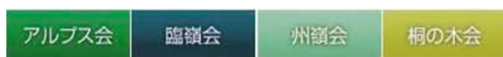
参加した学生の殆どから「プログラムの期間があまりにも短く感じられた。」との感想がアンケートで今年度も寄せられましたが、いずれのプログラムも充実していたことの何よりの証であると感じました。

オーストラリアでのホームステイの中での生活体験、ホストファミリーを介してのオーストラリア文化との遭遇など、また看護学、検査技術科学、そして理学療法学等の医療専門教育をカーティン大学の学生と共に受講する中で、相互間の英語によるコミュニケーションの大切さを肌で感じたことと思います。また、多国籍国民が多いオーストラリアやシンガポールでの日々を体感し、国際的感覚を培う契機ともなるなど、更には日本を離れての生活から、自律性の重要性を確認する機会になるなど、大きな収穫があったと思います。

参加した全学生が体験された貴重な日々を蔭で支えた引率教員各位、そして、その円滑運営に労を惜しむことなく支援された保健学科教職員各位には心からの敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

本プロジェクトは発足以来、着実に成果を上げて来ているのを実感させていただいております。今後は緊密な連携の中で、更に一步進んだカーティン大学との学術交流や大学院生相互間の交流等へと進展していくことを念じております。また、シンガポールでの医療機関等との友好的な関係を深めながら、この夏季海外研修プログラムがより一層の輝きを放って行って欲しいと思います。

次年度には、更に多くの学生が参画してのプログラムになることを祈念しながら、保健学科同窓会は、そんな「夏季海外研修プログラム」をこれからも支援していきます。



信州大学医学部保健学科同窓会
School of Health Sciences, Shinshu University

II. 学術交流の概要

1. 学術交流協定および学生の交流に関する覚書締結の経緯とカーティン大学交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授（現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長）と、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之教授、楊箬隆哉教授（当時）およびゴウ・アー・チェン助手（現准教授）の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え、健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集、共同研究課題の打ち合わせを目的としてカーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折り、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折り、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン-スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パメラ・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫教授（短期大学部長）以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位認定プログラムに参加した。第2回以降の詳細は以下のとおりである。

第2回	2002年	27名	第7回	2007年	17名*	第12回	2013年	21名
第3回	2003年	24名	第8回	2008年	31名**	第13回	2014年	17名
第4回	2004年	20名	第9回	2010年	19名	第14回	2015年	18名
第5回	2005年	29名	第10回	2011年	17名	第15回	2016年	10名
第6回	2006年	28名	第11回	2012年	22名			

* 信大附属病院看護師2名を含む ** 大学院生2名を含む

- 9) カーティン関係者招聘：2007年1～2月、国際教育課程ディレクター パメラ・ロバーツ、2010年1月、Nursing school 講師アラン・トルク。2013年1月、Biomedical Sciences 学部 Dr マーティン。2015年1月、カスタマイズ・プログラム担当者 ジュディー・モイアー。

2. 学術交流協定および教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定および2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」および「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新され、2009年には信州大学国際交流センターを窓口とした大学間協定となり、夏期海外研修プログラムとカーティン教員招へいが医学部保健学科とカーティン大学英語センター (Curtin English Language Center, CELC) ・健康科学部により企画・実施され、両校の交流は一層親密に深められることになった。また、本協定に基づき、信州大学はカーティン大学から短期留学生 (学部) を受け入れている。

教員と学生の交流に関する協定書 (2015.4 Curtin University of Technology)

<p style="text-align: center;">STUDENT EXCHANGE AGREEMENT</p> <p style="text-align: center;">Between</p> <p style="text-align: center;">CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, Perth, Western Australia (trading as Curtin University)</p> <p style="text-align: center;">And</p> <p style="text-align: center;">SHINSHU UNIVERSITY, Nagano, Japan</p> <p>Curtin University of Technology, trading as Curtin University (hereinafter referred to as 'CURTIN') and Shinshu University (hereinafter referred to as 'SHINSHU') agree to the following terms.</p> <p style="text-align: center;">DEFINITIONS</p> <p>In this Agreement, unless the context will otherwise imply:</p> <p>HOME institution means the institution at which the student intends to graduate; HOST institution means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.</p> <p>ACADEMIC YEAR in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester 1) and July to November (Semester 2); and in the context of SHINSHU means April to August (Semester 1) and October to February (Semester 2).</p> <p>EXCHANGE STUDENTS means students attending the HOST institution with no requirement to pay tuition fees to that institution and where reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.</p> <p>STUDY ABROAD STUDENTS means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligations exist for the HOME institution to accept for enrolment students from the HOST institution.</p> <p>EXCHANGE PROGRAMS refers to students undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students.</p> <p>CLINICAL PRACTICE refers to activities undertaken by students as part of their enrolled course requirements to develop their professional competencies in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialized knowledge, judgement and professional skill, and at all times will be conducted under the supervision of qualified staff.</p> <p style="text-align: right;">Shinshu_Curtin Student Exchange Page 1 of 7</p>	<p style="text-align: center;">SIGNATURES</p> <p>This Agreement constitutes the entire Agreement between the parties. There are no understandings, agreements, or representations, oral or written, not specified herein regarding this Agreement. No amendments, consent, or waiver of terms of this Agreement shall bind either party unless in writing and signed by all parties. Any such amendment, consent, or waiver shall be effective only in the specific instance and for the specific purpose given. CURTIN and SHINSHU by the signatures of their authorised representatives below, acknowledge having read and understood the Agreement and agree to be bound by its terms and conditions.</p> <p>Signed for and on behalf of SHINSHU UNIVERSITY</p> <p><i>Kiyohito Yanasawa</i> President Dr Kiyohito Yanasawa Date: April, 10, 2015</p> <p>Signed for and on behalf of CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY</p> <p><i>Neeraj</i> Deputy Vice-Chancellor International Date: 10.4.15.</p> <p style="text-align: right;">Shinshu_Curtin Student Exchange Page 6 of 7</p>
--	--

3. シンガポールおよびネパール短期留学プログラムの発足と国際交流委員会へ名称変更

2014年には、シンガポールおよびネパールの夏期海外研修保健医療スタディツアーのプログラムが加わった。これに伴い、2014年4月より委員会名が、カーティンプログラム実施委員会から保健学科国際交流委員会に名称変更された。

シンガポール保健医療スタディツアーは、理学療法専攻 (応用理学療法学) の Goh Ah Cheng 准教授が Singapore General Hospital : SGH での講義や活動を継続していたことから交流があり、学生の研修を含めて協定を結んだ。2014年 (1回) 7名、2015年 (2回) 17名、2016年 (3回) 14名が当研修プログラムに参加した。

ネパール保健医療スタディツアーは、看護学専攻広域看護学領域の奥野教授（公衆衛生看護）がかねてより現地のNPO活動を支援してきたこと、学生からの渡航訪問希望が継続していたことから、プログラムが発足した。2014年（1回）5名が夏期海外研修プログラムに参加した。2015年4月25日のカトマンズ付近を震源とするネパール地震の発生をうけ、予定されていた2015年のプログラムは中止とした。2016年（2回）には2名が当研修プログラムに参加した。

学生交流に関する協定書（2013.Singapore Health Services PTE Ltd.）

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
FOR THE DEVELOPMENT OF ACADEMIC COOPERATION**
Between
**SINGAPORE HEALTH SERVICES PTE LTD ("SINGHEALTH")
SINGAPORE**
And
**SCHOOL OF MEDICINE, SHINSHU UNIVERSITY
NAGANO, JAPAN**

In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, SingHealth, through its Group Allied Health, and Shinshu University, through School of Medicine agreed that:

1. The parties will:
 - i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;
 - ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;
 - iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing prior to commencement of this activity;
 - iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;
 - v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;
 - vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.
 2. The aim of the Memorandum of Understanding shall be to achieve a broad balance in the respective contributions and benefits of the collaboration, and this shall be subject to periodic review by both parties.
 3. The coordinators from the parties will prepare an annual joint report on activities in the areas of cooperation under this Memorandum of Understanding.
 4. In the implementation of specific cooperative programs, a written agreement covering all relevant aspects including funding and the obligations to be undertaken by each party will be negotiated, mutually agreed and formalised in writing, prior to the commencement of the program.
- As such this Memorandum of Understanding does not of itself create any legal obligation of any kind on either party to undertake the collaboration described herein.
5. This Memorandum of Understanding will take effect from the date of its signing and shall be valid for a period of five years from that date unless sooner terminated, revoked or modified by mutual written agreement between the parties, and may be extended by mutual written agreement.
- Either party may terminate the Agreement at any time during the term by the provision of three months written notice to the other party.

- 6A.1 A Party in receipt of Confidential Information from the other Party shall not use or disclose the other Party's Confidential Information without that other Party's prior written consent other than (i) for the purposes of carrying out this Memorandum of Understanding, provided any disclosure is only to such of the receiving Party's personnel or to its related company and its personnel who need to know and who are made subject to the confidentiality requirements of this Memorandum of Understanding or (ii) as required by law.
- 6A.2 Confidential Information means (i) terms of this Memorandum of Understanding and (ii) all information (in whatever form) disclosed by one Party to the other, whether before or after the date of this Memorandum of Understanding but excludes information which (a) is or becomes public knowledge other than through a breach of this Memorandum of Understanding (b) the recipient can show to the discloser's reasonable satisfaction to have been in the recipient's lawful possession prior to disclosure or (c) the recipient can show to the discloser's reasonable satisfaction to have been lawfully received from a third party not obliged to keep that information confidential.
- 6A.3 Subject to Clause 6A.6, the Parties shall not make any public announcement in relation to this MCU without first obtaining the approval of the other Party.
- 6A.4 Subject to Clause 6A.6, each Party shall not use any name, logo, trade name, trademark, service mark or other symbol associated with the other Party without the prior written consent of the other Party.
- 6A.5 Each Party shall respect the intellectual property of the other Party.
- 6A.6 Notwithstanding anything to the contrary in this Clause 6A, Shinshu University shall be entitled to communicate the existence of this Memorandum of Understanding in its internal communication (including in its website and in-house publications).

IN WITNESS WHEREOF, the parties hereby affix their signatures on the date and place first above mentioned.

Signed by _____)
Name: Prof. Dr. Yoshimitsu Fukushima)
Designation: Dean, School of Medicine)
duly authorised to sign for and on behalf of:)
SCHOOL OF MEDICINE, SHINSHU UNIVERSITY)
in the presence of: _____)
Name: Prof. Masayoshi Ohira)
Signature: *Masayoshi Ohira*)

Yoshimitsu Fukushima
Signature
Date: Aug 9, 2013

Signed by _____)
Name: A/Prof Cedra Tan)
Designation: Group Director, Allied Health)
duly authorised to sign for and on behalf of:)
SINGAPORE HEALTH SERVICES PTE LTD)
in the presence of: _____)
Name: Ms. Tan May Yan)
Signature: *May Yan*)

Cedra Tan
Signature
Date: Aug 20, 2013

Ⅲ. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要

1. プログラムによる育成人材像および達成目標

1. 他国の人々と協同して活動ができるように英語コミュニケーション力を高め、国際社会に貢献できる人材を育成する。
2. 英語による学習から、異文化交流の意義と魅力を体感する。
3. 異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
4. 卒前・卒後教育、臨床の機会を自ら国外にも求め、国際的に活躍できる医療従事者を育成する。
5. 海外への大学院留学や日本に留学した学生などと、英語を用いて共同研究ができる人材を育成する。

2. 国際交流プログラムの全体

1. 大学間学術交流協定に基づくオーストラリア・カーティン大学 (Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム
カーティン大学や医療機関での学習および現地ホームステイを中心とする体験プログラム
2. 信州大学—ネパール連邦民主共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
ネパール、カトマンズ他の地域においてNPO活動と現地住民との関わりを中心とする体験プログラム
3. 信州大学—シンガポール共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム
シンガポールの主に医療機関でのレクチャーおよび見学を中心とする体験プログラム

IV. 信州大学-Curtin University

大学間学術交流協定に基づく夏期海外単位認定プログラム



信州大学 - Curtin



1. カーティン大学の概要

1. 設立

- 1) 1967年：The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年：Curtin University of Technology (カーティン工科大学) となる。
- 3) 2010年：Curtin University (カーティン大学) となる。

*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

- 1) 西オーストラリア州
- 2) メインキャンパスはパース (Perth：西オーストラリア州の州都。人口約120万) の郊外ベントレー (Bentley：中心部より10キロ南東へ位置、海岸まで車で20分) に立地し、他に Perth 中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス (海外を含む) を有する (Kalgoorlie, Margaret River, Northam, Perth, Shenton Park, Sydney; Malaysia, Singapore) .

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

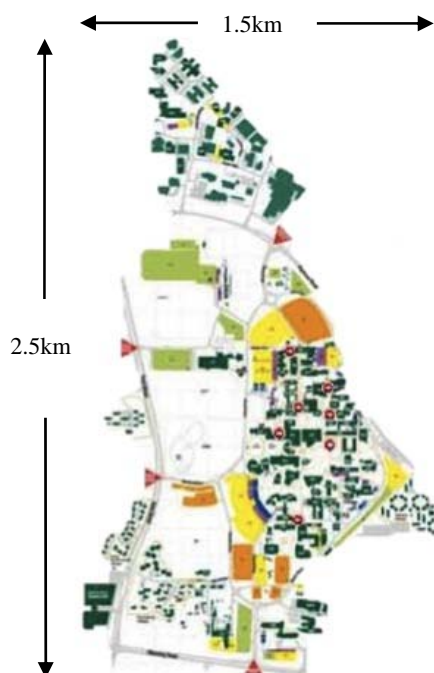
Tel : 08-9266-9266, HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

3. 学部等

- 1) 学部：経営学部、健康科学部、人文学部、理工学部、先住民研究
- 2) 大学院：経営学、健康科学、人文科学、理工学

4. 学生数 (2015年) および教職員数 (2015年)

- 1) 学生数：約6万人
留学生：約16,400人
- 2) 教職員数：約4千人 (うち教員約1850人)



2. 平成 28 年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン大学間学術交流協定にもとづき、平成 28 年度夏期海外単位認定プログラムが 8 月 6 日から 8 月 21 日の約 2 週間にわたり、カーティン大学およびパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには 10 名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

カーティン大学での単位認定プログラムの実施にあたり、5 月から 7 月にかけて、単位認定プログラム全般のオリエンテーション、研修内容の説明、研修関係資料の配布と事前学習の説明が 7 回行われた。

2. 夏期海外単位認定プログラム

1) 目的:

他大学・文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。

2) 本学における単位認定:

国際医療協力論の単位として認定する。単位認定には、信州大学、カーティン大学における全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が 必須である。

3. 研修期間

平成 28 年 8 月 6 日（土）～8 月 21 日（日）の 16 日間

4. 研修場所

1) 研修キャンパス；カーティン大学ベントレーキャンパス

2) 見学施設

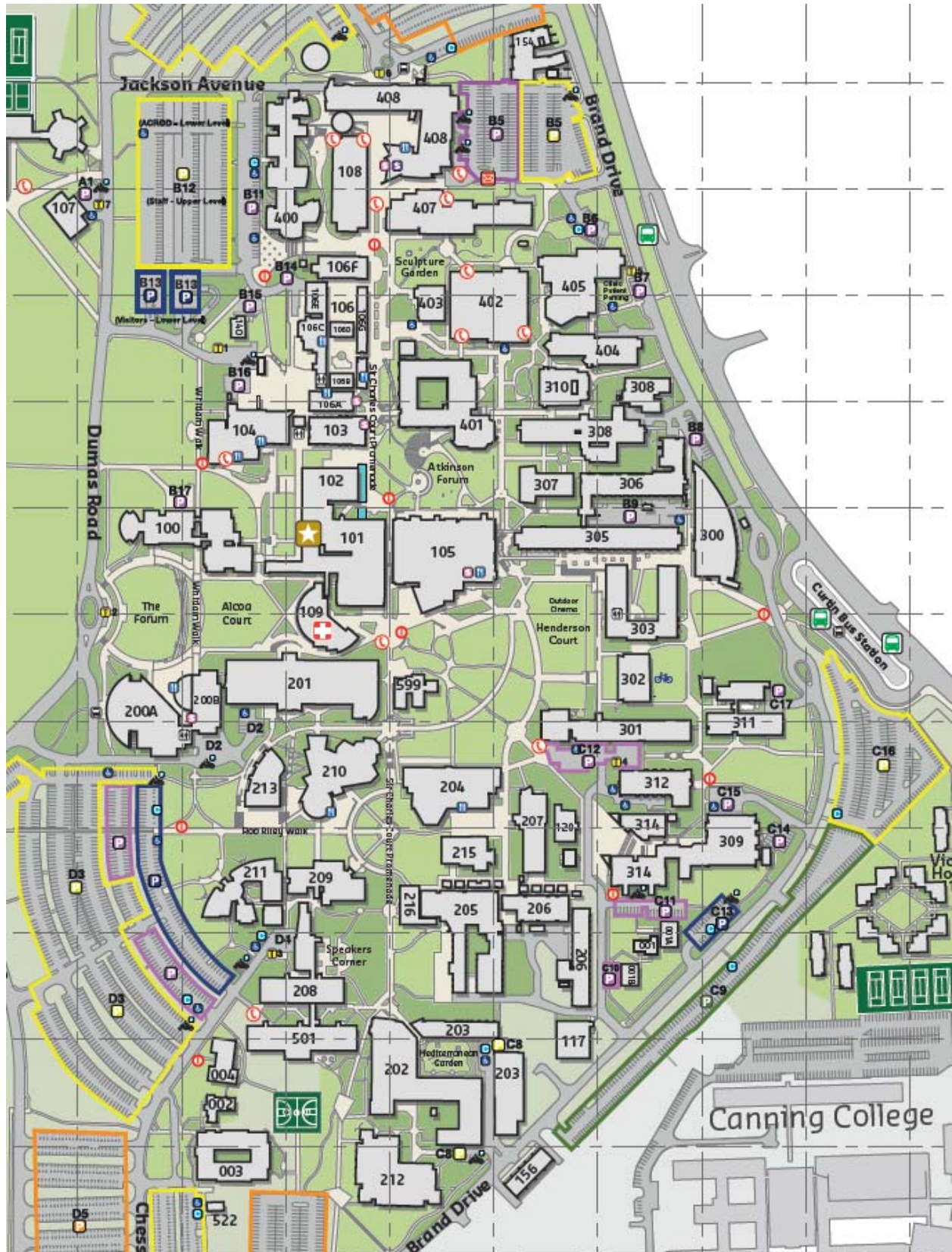
Regent's Garden Aged Care Facility, Booragoon

King Edward Memorial Hospital, Perth

Western Australian Institute of Sport, Perth

Hospital Rehabilitation Clinic, Perth

Red Cross, Perth



5. 研修プログラムの内容 (Curtin University)

第1週 ; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional

- ・オリエンテーション
 - ・英語および医療英会話の授業
 - ・キャンパスツアー、看護・理学療法・検査の各学科訪問見学
 - ・保健医療領域の合同授業
 - ・現地で日本語を学ぶ学生との交流
 - ・遠足 (スワン・バレー)
- 施設見学 (全専攻共通) :

Hospital Rehabilitation Clinic, Perth

Regent' s Garden Aged Care Facility, Booragoon

第2週 ; Combined Lectures/ Tutorial, Practice, Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・専攻別専門領域の授業
- ・アボリジニの文化とライフスタイルについての授業
- ・現地で日本語を学ぶ学生との交流
- ・施設見学 (全専攻共通)
 - ① King Edward Memorial Hospital, Subiaco
 - ② Western Australian Institute of Sport, Perth
 - ③ Red Cross, Perth
- ・修了式

6. 参加人数

看護学	:	3名 (2年生2名、3年生1名)
検査技術学	:	4名 (2年生1名、3年生3名)
理学療法学	:	3名 (2年生1名、3年生2名)

合計	10名
----	-----

7. 担当教員

引率：石田文宏 教授、會田信子 教授

国内・学内サポート：国際交流委員会

8. 研修費用

1) 研修費用 【内訳】

・往復航空運賃	約 178,000 円
・国内移動費	約 14,000 円
・保険料	約 13,000 円
・携帯電話レンタル料	約 4,000 円
・特別プログラム授業料等	約 161,000 円
英語クラス、保健学共通講義、専門別講義・実習、施設見学、緊急事故支援システム料、滞在費 (2週間 (ホームステイ、食事込))	
計	約 370,000 円

現地プログラム担当教員2名分の航空運賃、宿泊費は28年度信州大学知の森未来プロジェクト戦略的経費と保健学科同窓会寄付金等から計上された。

2) 研修支援

平成28年度夏期海外単位認定研修は、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）の平成28年度海外留学支援制度（短期派遣）に応募、採択された。参加学生10名のうち、審査基準に則り10名全員に7万円の奨学金が支給された。

9. リスク管理体制

2011年2月のニュージーランド地震時の日本人留学生被災等を踏まえ、平成23年度からは、信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS）のJCSOS緊急事故支援システム（J-Basic）に加入し、研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。

本年度はJCSOS緊急事故支援システムに加え、学生の留学生活中に発生する様々な問題を解決するためのサポートを含んだJCSOSトータルアシスタンスサービス（J-TAS）に、参加学生が加入した。

また、例年同様、学生・教員全員が同じ旅行保険に加入した。

10. 研修日程

研修期間：平成28年8月6日（土）～8月21日（日）の約2週間
詳細は「3. 研修プログラムの詳細」参照。

出発 8月6日（土）

20：15 頃 羽田空港着 国際線ターミナルAカウンター集合

22：55 羽田発 シンガポール航空 SQ635 便

8月7日（日）

05：00 シンガポール着

09：30 シンガポール発 シンガポール航空 SQ2223 便

14：40 パース国際空港着 各自入国審査、検疫を済ませる

16：00 バスでカーティン大学へ移動

16：30 カーティン大学でオリエンテーション

17：00～18：00 ホストファミリーと一緒にホームステイ先に移動

帰国 8月20日（土）＜以下、シンガポール・プログラムに継続参加した者を除く＞

14：15 カーティン大学（Taxi Stand 3）に集合

14：45 パース国際空港（大学からチャーターバスで移動）

17：10 パース発 シンガポール航空 SQ214 便

22：35 シンガポール着

23：55 シンガポール発 シンガポール航空 SQ638 便

8月21日（日）

08：00 成田着

入国検査、検疫など終了後、解散

3. 研修プログラムの詳細



2016 SHINSHU UNIVERSITY CUSTOMISED PROGRAM

Customised Programs Coordinators: Peter Ridley and Judy Moir

Customised Programs Teacher: Rika Wylde

Week 1 (week 3 ELICOS/week 2 Sem 2)

Time	Sunday 7 August	Monday 8 August	Tuesday 9 August	Wednesday 10 August	Thursday 11 August	Friday 12 August	Saturday 13 August
AM	Arrive Perth SQ223 14:40 Bus from airport to Curtin; Homestay orientation and meet host families	9 – 12 Orientation program 301.112 10.30 – 11.30 Activate internet account 402.224 Peter and Rika	9 – 11 English Class: Introduction to Australian Culture 104.103 Judy 11.15am Physiotherapy facilities tour	9 – 10.30 English Class: communication skills; preparation for excursion 104.103 10.30 – 11.30 Robertson Library tour Judy	Excursion: Swan Valley: 9.45 – 12.30: Caversham Wildlife Park: 10 – 10.45 Molly's Farm show; 10.45 – 12.30: Free time including lunch; 1 – 1.30: Margaret River chocolate factory; 2pm: Sandalford Winery 8.45: Bus depart Curtin 3pm: bus depart Sandalford Peter	Field trip 10 – 11 Hospital Rehabilitation Clinic, Robin Warren Drive Meet Kye Davey Lunch at Garden City Shopping Centre Peter	Excursion to Rottnest Island (Shinshu University arranged excursion)
Lunch	501.116						
PM		Orientation program visit: local shopping centre and supermarkets Rika	1 – 3 Class: communication skills 104.103 Judy	12 – 1 Language Exchange with Curtin Japanese Club (CJC) members 502C.101 1pm Nursing Facilities Tour 1 – 3 Class: English for health professionals; preparation for field trips 104.103 Peter		Field trip 1.30 – 3 Regents Garden aged care facility, 495 Marmion Street, Booragoon 9am bus depart Curtin 3pm bus depart Regents Peter	

Week 2 (week 4 ELICOS/week 3 Sem 2)

Time	Monday 15 August	Tuesday 16 August	Wednesday 17 August	Thursday 18 August	Friday 19 August	Saturday 20 August
AM	<p>8 – 10 <i>Physiotherapy Lecture</i></p> <p>8-10 Biomedical <i>Lecture 108.102</i></p> <p>10 – 12 Nursing <i>Workshop</i></p>	<p>10 – 12 <i>ELICOS</i></p> <p>10-12 Tour of <i>Biomedical Facilities</i></p> <p>Meet in the foyer of <i>building 308</i></p>	<p>8 – 10 <i>Physiotherapy Lecture</i></p> <p>10 – 12 <i>ELICOS</i></p>	<p><i>Field trip</i></p> <p>10 - 11 <i>Western Australian Institute of Sport (WAIS), McGillivray Rd, Mt Claremont Lunch at Kings Park Peter</i></p>	<p>10 – 12 English class – debrief</p> <p>11am Award Certificates of Completion</p> <p>104.103 <i>Peter</i></p>	<p><i>Depart Perth *SQ226 14:05 SQ214 17:10 Bus from Curtin to Airport *4 students depart early to join Singapore program; Curtin transport not required</i></p>
Lunch						
PM	<p>2 – 4 Nursing <i>Tutorial</i></p> <p>2-5 Biomedical Lab <i>308.126</i></p> <p>2 – 4 <i>ELICOS</i></p>	<p>12 – 2 Nursing <i>Lecture</i></p> <p>1 – 3 Physiotherapy <i>Lecture</i></p> <p>2-4 Biomedical <i>Lecture 210.104</i></p>	<p>12 – 1 <i>Language Exchange with CJC members</i></p> <p>502C.101</p> <p><i>Field trip 1.30 – 2.30 King Edward Memorial Hospital (main entrance), Subiaco Meet Lily Zhang</i></p> <p>12.45 bus depart <i>Curtin</i></p> <p>2.30 bus depart <i>KEMH Peter</i></p>	<p><i>Field trip</i></p> <p>1.30 – 2.30 <i>Red Cross, 2nd Floor Reception, 290 Wellington Street, Perth Meet Susan Hansord</i></p> <p>9am bus <i>depart Curtin</i></p> <p>2.30 bus <i>depart Red Cross Peter</i></p>	<p>12 – 1 <i>Graduation Lunch Common Ground Cafe</i></p>	

Nursing Timetable

Day/Date	Time	Unit	Lecturer	Venue
Wednesday, 10 August	1pm	SIM lab tour		B405, 301.308
Monday, 15 August	10am to 12pm	Foundation for Prof Health Practice (workshop)	Pam Nichols	300.216
Monday, 15 August	2pm to 4pm	Indigenous Cultures and Health (Tutorial)	Pam McCrorie	400.222
Tuesday, 16 August	12pm to 2pm	Inquiry for Professional Practice (Lecture)	Pauline Costins	403.101LT

Physiotherapy Timetable

Day/Date	Time	Unit	Lecturer	Venue
Tuesday, 9 August	11.15am	Facilities tour	Peter Robinson	level 3, 408, reception
Monday, 15 August	8am to 10am	Neuroscience Physiotherapy Rehab (Lecture)	Liz Bainbridge	213.101LT
Tuesday, 16 August	1pm to 3pm	Lifespan Health Science (Lecture)	Michelle Brown	Lecture 2 401.002LT
Wednesday, 17 August	8am to 10am	Upper Limb Musc (Lecture)	Karen Richards	401.002LT

Biomedical Science Timetable

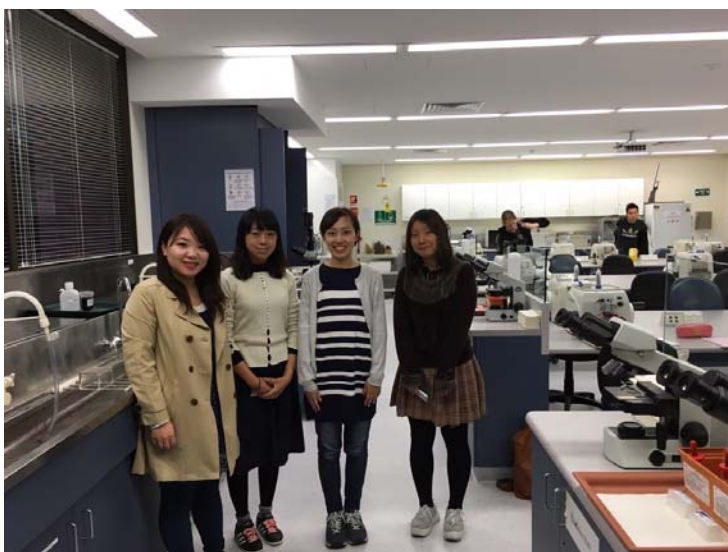
Day/Date	Time	Unit	Lecturer	Venue
Monday, 15 August	8am to 10am	Principles and Practice of Pathology lecture		108.102
Monday, 15 August	2pm to 5pm	Principles and Practice of Pathology Lab		308.126
Tuesday, 16 August	10am to 12	Tour of Biomedical science building 308 and Research facility building 305		Meet foyer building 308
Tuesday, 16 August	2pm to 4pm	Advanced Medical Microbiology lecture		210.104
Wednesday, 17 August	10am to 12	Foundations of Haematology lecture		108.102



カーティン大学にて



カーティン大学看護学見学



カーティン大学検査実習



WAISにて



Wildlife Parkにて



ロットネス島にて



修了証書をいただいて

4. 学生アンケート【10名】

参加者数	1年	2年	3年
看護学専攻		2	1
検査技術科学専攻		1	3
理学療法専攻		1	2
作業療法専攻			

I

出発前の準備について

1. 研修プログラムへの参加動機

- ・オーストラリアの医療について学びたかったから。また、ホームステイを通して英語の能力やコミュニケーション能力を身に付けたいと考えたからです。
- ・将来海外で働きたいと考えているため、海外の医療システムを見たかったから。
- ・英語をもっと勉強したいと思った。海外の医療に興味があった。
- ・海外の大学、病院、施設を見学でき、ホームステイも経験できるため。また、今後の自分にとっても貴重な財産となると思ったため。
- ・大学在学中に一度はこうした海外研修に参加し諸外国の医療状況を知り、異文化体験をしたいと思っていたため。
- ・海外留学を経験してみたく、期間・行先が自分の望んでいたところであったため。
- ・オーストラリアの理学療法や大学を見たかったため。また、ホームステイを試みたかったから。
- ・学生の中に、海外留学、ホームステイを経験したかった。オーストラリアのPTについて知りたかった。
- ・大学入学当初から参加したいと考えていた。Curtin大学の同じ専門科目を学んでいる学生は、どのような環境でどのような内容を学んでいるのか知りたいと思ったから。Curtin大学の学生やホームステイ先の家族と英語を用いて交流したい、自分の英語のレベルでどこまで有意義な研修になるか知りたいと思ったから。専門知識が増え、英語に対して抵抗が減ってきたこの大学3年という時期に参加することが、自分にとって有意義な研修になる一番良い時期だと思ったから。

2. JCSOS または短期海外活動支援の補助金以外の費用の捻出方法

- | | | | |
|------------|-----------|---------------|--------|
| 1) 家族が全額負担 | 2) 自己資金のみ | 3) 自己資金と家族の補助 | 4) その他 |
| 4人 | 1人 | 5人 | 0人 |

3. 渡航前の自己学習

1) 自己学習をした【10人】

学習内容

- ・英語、オーストラリアの医療体制について。
- ・動画サイトでTED やバイリンガルなどの動画を視聴し英語に慣れるよう努力した。
- ・英語サロンに行ったり留学生と話したりオンラインの英会話ツールを使うなどして少しでも英語を話すようにした。

- ・英語については日常英語、専門英語含め勉強した。
- ・オーストラリアの PT について。パースについて。簡単な英会話。
- ・英会話。
- ・英語学習。 ×3
- ・リスニング、日常会話。

2)何もしなかった【0人】

4. 研修プログラムの説明会の時期

適切 YES 8人
NO 2人

- ・夏期休業に入って1週間後あたりから。
- ・実習期間とかぶらない時期に実施してほしい

5. 参加申し込み締め切りの時期

適切 YES 10人
NO 0人

6. オリエンテーションについて

1)時期

適切 YES 10人
NO 0人

2)オリエンテーションの内容

適切 YES 8人
NO 2人

- ・実際の研修内容について

II ホームステイについて(カーティン大学プログラム参加者のみ回答ください)

1. ホームステイの満足度

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①費用について			3	6	1
②交通の便について				5	4
③食事について				2	8
④ホストファミリーについて				2	8
⑤全体の満足度				1	9

2. ホームステイを経験してよかったこと

- ・現地での家庭生活や、日常的な英会話について深く学ぶことができた。
- ・私のホームステイ先には歳の近い娘が二人いたので友達になれたこと。
- ・現地での生活、文化に触れることが出来てよかった。毎日英語を聞く生活だったので、英語を聞く能力が向上したと思う。

- ・自分の英語力が向上したと考える。また、ホストファミリーと出かけられるため、様々な経験を積むことができた。
- ・英語を話さなければならない状況に常にあることで自分の語学力は向上したと思う。家族とのかかわりを通して自分を見つめ直すことができた。
- ・英語しか使用できない環境にいる経験は初めてだったため、自分の考えを積極的にいう努力ができるようになった。
- ・海外の家庭を体験することができた。毎日一緒に過ごすので、ホストファミリーと親しくなれるし、日本語なしの生活をする事ができる。現地のことについてなんでも聞くことができる。何より毎日楽しい。
- ・ホームステイ先の家族とたくさん話すことができ、たくさん笑わせてくれた。また、毎日美味しい料理をふるまってくれ、一緒に出掛ける機会もあった。異なる生活や文化、宗教などを知ることができた。
- ・オーストラリアの生活スタイルを実際に経験できよかったです。大学が終わった後も家に帰ると hostfamily がいて、ずっと英語を使うことができたということが一番良かったです。また、homestay 先が同じだった三人の留学生と友達になれたり第二のお母さん・お父さんという大切な存在ができとてもよかったです。Homestay をすることでオーストラリアの生活事情が分かったり、日常英語を学ぶことができたりしたのでよかったです。
- ・家族の日々の生活の様子を見られたり中国からの留学生との会話も楽しむことができた。普段日本ではあまり食べないような料理を食べれたり、休みの日にオーストラリアで人気のあるフットボールの試合を観戦できたりカジノに連れていってもらったりとオーストラリアの文化に触れられるいい経験ができたと思う。

3. ホームステイで困ったこと

- ・特になし。×4
- ・最初にもらったホームステイ先の情報に書かれていた子供の年齢が間違っていた。伝えたいことが伝えられない時があった。
- ・家から大学が遠く、バスの本数も乗りやすい経路のものは限られていたため、時間調節が大変だった。他には特に困らなかった。
- ・初日にバツと大まかに家の中や生活の説明をされてその後一人で家に残されたときはどうしようかと思った。結局ホストファミリーが帰ってきたのは夜の9時頃で、初めてのホームステイ初日であれば凄く寂しかったし不安だった。
- ・水不足の国なので、洗濯がほとんど手洗いになってしまったり、シャワーの時間が制限されていたことには困った。
- ・シャワーの時間が短かったということ(もう少しゆっくり入りたかった)。そのほかに困ったことはありません。
- ・水が貴重なため、お風呂の時間が短かったこと。十分に温まらず、寒かった。

4. ホームステイに対する要望

- ・特にありません。
- ・特にありません。(今回のホームステイでは、とても良くしていただきました。)
- ・ホームステイ先の情報は正しいものを提示してほしい。
- ・今回のようにファミリーが学生の話聞いてくれると非常にうれしい。

- ・もう少し近いといいかなとは思った。
- ・今回、とても素敵な家族と組み合わせてもらいました。要望は特にありません。
- ・とても私にぴったりなホストファミリーで嬉しかった。私は楽しかったが、友達に友達のホストファミリーと比べられたのは嫌だった。
- ・ホストファミリーが生徒に興味をもっていろいろと質問したり話しかけてくれたりすると、生徒側も話しやすいと思う。

ⅢJ-TAS の利用状況について

海外留学生安全対策協議会(JCSOS)が提供しているサポート(J-TAS)について

1. 日常生活面について相談できる「海外危機管理サポートデスク」、健康面について相談できる「海外健康電話相談サービス」について、利用の有無

利用した 0人
利用していない 10人

2. これらのサービスが利用できる状況があつて、良かったと思いますか？

利用できなくても問題なかったと思う 0人
どちらともいえない 7人
利用できる状況があつて良かったと思う 3人

Ⅳ レンタル携帯電話の利用状況について

1. パースでレンタルした携帯の使用状況

まったく使用しなかった。	あまり使用しなかった。	よく使用した。	頻繁に使用した。
0人	2人	3人	5人

*使用要件

- ・道に迷ったときやホストマザーに帰る時間を連絡する時。
- ・ホストファミリーとの連絡で使った。主に帰る時間の連絡。
- ・学生間・教員との連絡。
- ・ホストファミリーとの連絡。移動中の友達との連絡。
- ・ホストファミリーや友人との連絡のやり取り。
- ・帰宅時間が遅くなる場合やどこかに迎えに来てもらう場合 hostfamily と連絡を取るために使用しました(電話よりもメールを多く使用しました)。また、外にいる時日本人の友達と連絡を取るとき使用しました。
- ・ホームステイ先でしか wifi を使えなかったため、外出先や大学内での友人やホストファミリーとの連絡に使用した。
- ・出かけていた際、ホストマザーへの連絡。また、バス内から先生や友達への連絡として使用した。

2. レンタル携帯の改善点等

V 研修コースについて

1. 英語及び医療英語の授業について(人数)

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①英語の授業を設けたことについて				1	9
②始業時間、授業の時間について			1	2	7
③授業の内容について				4	6
④授業のレベルについて			1	4	5
⑤全体としての満足度				2	8

2. 英語以外の授業についての満足度(人数)

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①始業時間、授業の時間について		1		6	3
②授業の内容について			2	6	2
③授業のレベルについて			2	7	1
④全体としての満足度				7	3

3. 施設等の見学(体験含む)について

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①見学の時間について		1		6	3
②見学の内容について			1	5	4
③見学説明のレベルについて			1	6	3
④見学施設について			1	5	4
⑤全体としての満足度				6	4

1) 全体としての満足度が“やや不満”または“非常に不満”だった内容

- ・病院の検査室を見学したかった。

2) 一番印象に残った見学先を1つ挙げ、その理由を書いてください。

- ・Fiona Stanley Hospital 日本の病院との雰囲気の違いを強く感じたから。

- ・産婦人科病院: 日本との医療制度の違いが見れたほかに、出産に対する概念や考え方の違いを知れたため、興味深かったから

- ・WAIS。日本で少ない sport physio の分野について見る事ができたから。

- ・Regents Garden aged care facility。設備が最先端で、患者のことを一番に思って作られており、日本とは違うと思った。

- ・Regents Garden aged care facility が一番印象に残った。これから老年の実習ということで、日本との比較が非常にしたすかったため。

- ・Regamts Garden aged care facility です。日本とは違い、一つ一つの部屋が一つの家のよう
に設計され、プライバシーが守られている空間である上に、介護職員や看護師の人数も多い
ので手厚い介護ができるという恵まれた環境であると感じたからです。

- Regents Garden aged care facility が最も印象深い。入所者の気持ちをよく考えて作られた空間、食事、サービスにとっても驚いた。例えば、各部屋を一軒一軒の家に見立てていること、食事は食材を食べやすいように工夫しつつ見た目も大切にしていることなどが挙げられる。様々なアイデアに感動させられた。
- Regents Gorden aged care facility：日本の高齢者福祉施設とはまた雰囲気が違い、介護方針や施設設備にもオリジナリティがあり見学していい経験になったと思う。
- Aged Care Facility:実際にこの施設で働いている日本人の方のお話を聞くことができ、いろいろな道があることに気付くことができたから。また、そこで暮らす高齢者に最適な暮らしを提供しようとする姿勢に共感したから。
- Hospitl Rehabilitation Clinic リハビリの現場が良く見学出来たから。

4. (1) 英語を使つての会話について

まったく積極的に 行えなかった	あまり積極的に 行えなかった	どちらとも いえない	やや 積極的に 行った	とても 積極的に 行った
			7	3

(2) 今後、英語力アップのため、TOEIC や IELTS などの英語試験を受けようと思いますか

まったく 思わない	あまりそうは 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
	1	4	2	4

5. コースを通して、よかったこと

- 色々な施設に見学に行くことができ、充実した時間を過ごすことが出来ました。海外の医療について学び、日本との違いを知ることが出来ました。英語を話す、聞く能力を高めることが出来ました。
- ホームステイであったため、英語力の向上ができた。また、CJC との交流を通して、新たな友達もできた。いろいろな施設見学をすることにより、日本の医療の良いところやまだまだなところを発見することができた。観光もすることにより、オーストラリアの文化や環境を知ることができ、非常に良い経験となった。
- 現地の大学生に交じって授業が受けられたこと。長期留学をもしたら毎日こんな感じなのだというイメージが持てた。
- 英語の授業で意見交換をしたり、自分の考え発言したりと、英語で話す機会を増やしてくれたこと。多くの施設を見学したり、遠足など楽しむ機会も設けてもらったこと。施設見学では、他専攻についても知ることができたこと。
- オーストラリアの医療施設見学やカーティン大学の授業見学に加えて、各観光名所の見学や公共交通機関の使用などによってオーストラリアでの暮らしや日常の様子を知ることができた。
- 積極的に英語に触れる機会を作ろうと思えるようになった。また、現地でできた友人との交流が現在も続いており、今後の付き合いが楽しみである。
- 研修時間がもう少しながいと嬉しかったです。また、オーストラリアにつくまで日程が全く分からなかったのも、何を学ぶか直前までわかりませんでした。
- 多くの施設を見学出来たこと。また、施設だけでなく教育から見られたのは良かった。

- ・研修面では、海外のPTについて見る事が出来、日本との相違点も分かったし、今後の学習のモチベーションが上がった。英語面では、自分の拙い英語でもなんとか理解してもらえることが分かったし、今後の英語学習のモチベーションが上がった。ホストファミリーや現地の学生との交流は、異文化を体験できたし貴重な機会になった。
- ・Curtin English のスタッフの方々がとても親切で、授業の調整やバスの手配をしてくださり見学先へも同行してくださり感謝しています。研修に参加したメンバーがお互いに刺激し合いとても良い関係であったと思いました。ホームステイをすることができたことで、現地の学生のように家から大学へ通うということを経験でき良かったです。
- ・英語でも、日本語でも、しゃべることで相手に伝えることは大切なことだと感じた。オーストラリアで友達もできたし、信州大学の10人のメンバーとの交流も学科・学年関係なくいろんな話できて良かった。オーストラリアの文化、自然に触れ、リフレッシュもできた。2週間を通して、自分の専攻分野や海外、英語に対する学習意欲が高まった。

6. コースを通して、困ったこと

- ・カーティン大学での授業でレジュメをもらうことが出来なかったのも、授業内容を理解することが難しかったです。英語力が足りなかったため、上手くコミュニケーションをとることが出来ないこともありました。
- ・スマートライダーにお金をチャージしたと思ったらできてなかったことと、ホームステイ初日。
- ・各専攻に分かれての講義が難しかったこと。会話のスピードが速く、初めて聞くような内容では用語を理解するだけで精一杯だった。
- ・カーティン大学での授業スケジュールがタイトすぎて、お昼の時間などがなかったことが少し困った。しかし、その授業の担当教員に言えば考慮してもらえたため、特に問題はなかった。
- ・午後の授業が直前になって変更になった事。しかし、スタッフの方が親切に対応してくださったのでそこまで困らなかったです。
- ・タイムスケジュールの表が見にくかった。
- ・自分の専攻以外の施設見学では、医療単語が英語で分からず、理解することが難しかった。
- ・英語についてはなかなか理解できずに苦しんだ。あとは、路線バスが難解で、何回も道に迷いそうになったこと。

7. コースについての要望

- ・特にありません。(×2)
- ・今のままで十分だと思う。
- ・研修前に予定を知っておきたかった。
- ・出発が、テスト期間終了後最低1日あると有り難かったです。
- ・2週間過ごしてみてやっとパースでの生活に慣れたので、2週間で帰ってしまうのは勿体ないと思いました。留学期間をもう少し延長すると、もっと様々な経験ができるのではないかと感じました。
- ・現地に着くまで2週間の研修予定が全く分からなかったのも、大まかでもいいので日本にいる時に研修内容(予定)を知ることができればよかったです。大学側の授業の調整もあり難しいとは思いますが事前に、参加する講義内容を知りたかったです。難しいとは思いますが、もう少し臨床的な、病院の検査室など見学したかったと思いました。やはり、もう少し長い期間(3~4週間)研修を行いたかったです。

- ・タイムスケジュールの表の改善。2週間はとても短いと感じた。やっと英語が聞き取れるようになってきて、話す余裕、文法を考えながら言葉を発する余裕が出てきた時期がちょうど帰る時期だったので、なんだかもったいないなと思った。語学力を高めることも今回のプログラムの大きな目的であったと思うから、もっと長い期間であってもよいのではないかと思う。
- ・実施時期が、テスト終了後すぐだったので、なかなか十分に準備ができなかった。もう少し、2日くらい開始時期を遅らせてほしかったかもしれない。

8 研修全体に対する評価

	大変悪かった	悪かった	どちらともいえない	よかった	大変よかった
①実施時期について		2	4	4	
②期間について		3	1	6	
③コースの構成について				8	2
④研修先のスタッフの対応				2	8
⑤信州大学教官の対応				6	4
⑥全体としての評価				6	4

*全体としての評価が“悪かった”または“大変悪かった”、その具体的な内容

- ・出発日が期末試験が終了した翌日だったため、準備が非常に忙しかった。また、実施期間はもう少し長くても良いと思う。

9. 今回の経験の意味 また、今後の学習・進路などへの影響

- ・英語力をもっと伸ばそうと思えた。この先英語の学習に力を入れると考える。
- ・今回の経験は非常に有意義なものになったと思う。信州大学とカーティン大学の教育現場の差を知るのは今後の授業への参加方法にいい影響を与えそうだったし、逆にオーストラリアにはない日本の素晴らしさも改めて認識することができた。
- ・非常に貴重な体験だった。人との関わり方、自分の意見の伝え方、シンプルな考え方、家族の温かみ、自分の性格、たくさんのことを見つめ直すことができた。もっといろんな国へ行っていろんな経験をしたいと強く思った。今後、自分が資格をとって働く際、どのようにして、どんな医療者として働きたいのか、考える糧になると感じている。もっと視野を広げて興味があることを突き詰めていきたい。英語ももっと話せるようになりたい。
- ・2週間の留学は短いと感じたので、今後機会があれば長期の留学がしてみたいと感じました。カーティン大学の生徒たちのように、私も積極的に授業に取り組んでいきたいです。オーストラリアで生活したことによって、日本は恵まれており便利な国であることを再確認することが出来ました。
- ・英語をもともと勉強していたが、さらにもっと流暢に話せるようになりたいと思うようになった。進学をすぐに海外ですることはおそらくないが、海外で勉強することにも興味を持った。また、他国との医療制度の違いに直接触れることができたことで、国際医療に関する興味がより高まった。

- ・初の海外留学で、海外の PT や PT 学生について知ることができたのは大きいと思う。今後の学習についてのモチベーションが上がったし、進路についても海外の選択肢が増えたと思う。また、英語に対する抵抗が今までよりも少なくなったと思う。
- ・今回、日本の理学療法とは全く異なる制度のオーストラリアの理学療法について知れたことにより視野を広げることが出来た。私は海外で働きたいとは思っていないが、きちんと海外を視野に入れられている、現状に満足しない理学療法士になっていきたいと強く思った。また、普段日本には感じられない英語の重要性を感じ、せめて英語の論文が読める程度の英語力を付けていきたいと感じた。
- ・海外により強い興味をもつよい機会となった。また、自身の英語力を高めるよい機会になったと思う。今後の学習でも、英語の勉強に対するよいモチベーションになるのではないかと思う。
- ・日本と同じ部分、異なる部分の両方を知ることができた。日本の技術の素晴らしさを再認識するときもあれば、足りない部分を発見する時もあった。今回の経験を通して、より考え方の視野が広まった。また、ホームステイは非常に貴重な経験であり、自分の考えを伝えることの大切さを知り、異なる考え方への柔軟性も身に付いた。これらは今後の学習や就職時、様々な人と関わっていく中で、より多面的な考え方や異なる考え方への理解、自分自身の考えを大切にすることなどに役立ち、自分自身と周囲にも良い影響となると考える。
- ・人生には様々な選択肢があることに改めて気づくことができ、自分の将来について改めて考えることができました。また、Curtin 大学の学生のようにやる気と目的をもって残りの学生生活を送りたいと思います。

5. 学生レポート

今回の研修は2週間という短い期間ではあったが、その中で様々な施設を見学し、たくさんの人と出会うことができ、非常に貴重な経験となった。

1. 施設見学

<Hospital Rehabilitation Clinic>

1週目に Hospital Rehabilitation Clinic の見学をさせていただいた。この病院はかかりつけ医の後に行く日本の大学病院のような施設である。とにかく大きな施設で、最初に病院内に入った時の印象はきれいでおしゃれであることだった。病院内には芸術作品や、どの病室からも緑が見られるような工夫がされていることなど患者のメンタルヘルスにも力を入れている構造となっていた。この施設の中で驚いたことは、シュミレーションルームや水治療法を行うための大きなプール・様々な器具のあるリハビリテーションを行う部屋など、設備が充実していたことである。このような設備が充実している病院に市民ならほとんど無料でかかることが出来るという。健康志向の強いオーストラリアだからこそ出来ることだと思った。

<Regents Garden aged care facility>

高齢者福祉施設である Regents Garden aged care facility の見学は看護と強く結びつきがあるのでとても興味深い見学内容となった。この施設は多額の入所金が必要となる、いわゆる富裕層向けの施設ではあったがその設備はやはりそれに見合ったものだったと思う。それぞれの居住スペースはまるでちょっとした村にいるような造りになっており、廊下は街路のよう

でそれぞれの部屋は小さな一軒家をモチーフにしたようで凄くかわいらしく、施設という印象をほとんど感じさせなかった。ラウンジや食堂と呼べる場所はまたちょっとしたホテルのようで高級感があふれていた。このような施設は日本にも探せばあると思うが、勤務体制には少し違いがみられた。施設で働いている看護師や OT,PT は主に管理職であり、実際に主にケアにあたっているのは OT-a や PT-a といった一段階下の役職の人々とケアワーカーさん達だった。あと職員はアジア系職員が多く、施設を案内してくれた女性も日本人だった。アメリカ系の職員は以前の白豪主義の名残からか利用者に拒絶されることが度々あるらしくほぼいないようだった。こうしたところにもこの国の歴史が垣間見えて興味深かった。OT-a や PT-a も自国では医者や列記とした OT や PT だった人が多く、オーストラリアで医療者として働くにはまたオーストラリアで資格を取りなおさないといけないので、また加えて学びを深めなければならない。

< WAIS >

WAIS(Western Australian Institute of Sport)は、昨年から始まった新しい施設であり、オリンピック選手も利用している総合スポーツ施設である。80m のランニングトラックでは、陸上跳躍種目の踏み切り時の圧計測装置やハイスピードカメラでの撮影によってテクニックの分析を行ったり、陸上投擲種目が室内で行える設備や様々な角度からの撮影による分析を行ったりできる。スイミングプールでも、水中ハイスピードカメラによってフォームの分析を行える。トレーニングルームは様々なマシンが広いスペースにあり、肉体強化をすることができる。肉体強化だけでなく、リアクションタイムテスターでは、神経回路の強化も行うことができる。その他、ハイドロセラピーセンターや、リクリエーションエリア、アスリートキッチン、ベッドルームなどトレーニングだけでなくケアのための設備も充実していた。特に印象に残ったのが、Physiology laboratory である。この部屋では、理学療法士が研究や、選手を対象にトレッドミルやエルゴメーターを使用したテストや血液サンプルを利用した分析、気温・気圧・酸素濃度・湿度を変化できる部屋でのトレーニングを行う。日本ではスポーツ理学療法はまだ一般的な分野ではないため、実際に選手の動作分析やコンディショニングや研究を行っている理学療法の現場を見ることができたのは貴重な機会であった。

< King Edward Memorial Hospital >

訪問した King Edward Memorial Hospital では、出産に対する日本とオーストラリアの制度やケア・援助の相違点を学んだ。日本では現在病院で分娩台を用い、医師や助産師等の医療者に囲まれて出産を迎える例が多い。しかし当病院では、よりリラックスした状態で出産に臨める水中出産や、医療者があまり関わらずに家族と迎える出産等、個人により適した環境で出産に臨める設備が完備されていた。家族と迎える出産のためには家庭の部屋のような部屋が準備されていた。また、分娩台を用いた出産においても、待機室と分娩室を1つのベッド・部屋で兼ねているため、移動等がなく、スムーズに出産に臨めるという仕組みになっていた。オーストラリアでは出産後日本のように数日入院することは、順調に経過している場合以外はなく、産後6時間程経過すると帰宅するのが一般的である。日本では産後の入院期間の間に褥婦のケアや指導を積極的に病院側が行うため、日本との相違点を知ることができた。最も印象的であったのは、助産師等の資格を持っていても、働き続けるためには毎年資格の試験に合格し続けなければならないということである。日本では一般的にそのようなことはないため、適切なケアを実施するために資格の更新の制度があることは必要の可能性があると感じた。

< Australian Red Cross Blood Service >

Australian Red Cross Blood Service も見学させていただいた。ここは、赤十字の血液事業を担っている。献血後の血液から必要となる成分の分離方法や各製剤の保存方法など、機械や保存場所を実際に見ながら説明していただいた。全血、赤血球、血漿、血小板それぞれの保存場所を見ることができ、血小板の浸透保存も実際に見ることができた。やはり、基本となるところ（製剤の保存温度や保存方法など）は信州大学の講義で学んだことと違いはなかった。しかし、実際に見学することでより理解が深まった。また、製剤の ABO 血液型検査、抗体検査、感染症検査などについても教えていただいた。輸血では一つの間違えやミスが患者さんの命の危険に直結してしまうので、こういった検査を行うことは非常に重要であり、製剤の安全性に十分な配慮が必要であることが分かった。

2. Curtin 大学での講義・見学

<看護学専攻>

看護学専攻は看護の演習室を見学し、引用文献の書き方のワークショップと看護倫理の講義を受けた。看護の演習室には臨床現場と同じような病棟が再現されていた。1 番驚いたことは病室と椅子が多くある部屋とがマジックミラーで仕切られており、その椅子に生徒が座り、病室で再現された状況に対してのケアをマジックミラー越しに見て観察し、フィードバックできるようにしていたことである。このような学習環境は初めて見たため、驚いた。ここで失敗し、臨床では失敗しないようにするためであるという学習目的がいいと感じた。次に引用文献の書き方のワークショップに参加した。日本よりも著作権を大切にしているような感じを受けた。最後の看護倫理の講義では、内容は難しかったが、生徒が自由に発言をし、全員で事例について話し合っていることが印象的であった。

<検査技術科学専攻>

現地の学生に交じって専門科目の講義を受けた。受けた科目は病理学や微生物学、スポーツ血液学だった。習っていない病気や微生物の内容も含まれており、講義についていくのは大変だった。また、スポーツ血液学ではドーピングと血液との関係について勉強した。このような学問を学ぶのは初めてであり、大変新鮮だった。

実習にも参加させていただいた。行った実習は組織の染色である。HE 染色はもちろん、まだ習ったことのなかったトリパンブルー染色や、PAS 染色もやらせていただいた。やったことがなく、難しかったが、3 年生の先輩方や現地の教員の方に教えてもらい、なんとかやり遂げることができた。

施設見学では研究室の見学をした。カーティン大学には、フローサイトメーターなどの高価な機械や、信大のものとは異なった形のマイクロトームなどもあり、ただただ驚くばかりであった。

<理学療法学専攻>

見学では、カーティン大学の教室や実習の様子、研究設備を見させていただいた。まず実習では、一つのクラスが二つの教室を使って行っており、生徒が三人一組、もしくは二人一組で評価や治療の実技の練習を行っていた。教室にはベッドが八台ほど並べられており、一人の先生が回りながら指導をし、どの学生もそれぞれのペースで実習を進めている様子であった。研究設備は大きな二階建ての建物に吹き抜けの部屋があり、三次元動作解析のための装置やビデオが設置されており、主に院生が研究のために用いる際に使用される。また、学生が診察・治療を行うクリニックが大学内にあり、学生や教授の治療を行っていた。四年

次以上の学生がここで治療をし、勉強している。

講義では、実際に理学療法専攻の学生が受講している講義を二回受講させていただいた。一回目は妊産婦の理学療法、二回目は手指の理学療法についての講義であった。どちらの講義も、疾患・障害の病理と、それらに対する評価法、治療法を学ぶ内容であった。一回目の内容は特に、まだ学習しておらず、初めて知ることばかりでとても興味深かった。

3. その他

<観光>

1週目の木曜日に Caversham Wildlife Park、Margaret River chocolate factory、Sandalford Winery へ遠足に行った。Wildlife Park はオーストラリアに生息する様々な動物を見たり触ったりできる動物園である。私たちは、コアラに触ったり、カンガルーに餌付けしたり、ウォンバットと写真撮影したり、アニマルショーを見たりと貴重な体験をすることが出来た。Chocolate factory ではジャムやチョコレートの試食をしたり、チョコレートの製造過程を見たりすることができ、お土産を購入することもできた。Winery では様々な種類のワインをクラッカーやチーズとともに試飲させていただいた。

1週目の土曜日にはパースの沿岸線から 18 km離れたところにあるロットネスト島へフェリーで行った。ここではレンタルサイクルで、青空・海・砂浜・植物を見ながら島を散策することができ、とても心地よかった。また、笑っているような表情をしている可愛らしいクオッカを島の至る所で見ることが出来た。

<ホームステイ>

今回のプログラムの中で私たちにとって貴重な経験となったものがホームステイである。二週間、それぞれ違う家庭にホームステイをした。ほとんどの生徒にとっては初めての経験であり、パース到着後すぐにホストファミリーと面会するということもあり初めは緊張していた。それぞれのホームステイ先は、子どもがいたり私たち以外にも留学生がいたり、また大学からの距離が近かったり遠かったりと環境は異なったが、日を重ねるごとに積極的にコミュニケーションをとることができた。食事に関して、それぞれの家庭によって異なったが、お米を食べることもでき、お昼ご飯はいつもホストマザーが持たせてくれ、日本とは違うランチをいつも楽しみにしていた。皆ホストファミリーと良い関係を築くことができ実り多い経験となった。

このように実り多い経験ができたのは、信州大学や Curtin 大学の先生方、家族、ホームステイ先の家族、その他にも多くの方々にサポートして頂いたからこそだと感じている。感謝を述べるとともに、この経験を今後活かしていきたい。

以上、カーティン大学夏期海外単位認定プログラム

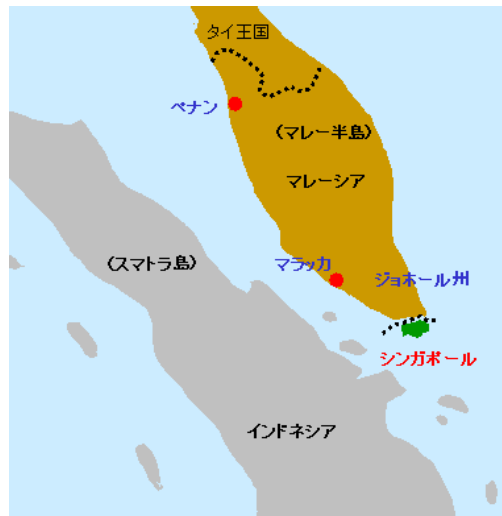


V. 信州大学—シンガポール共和国

夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム

Shinshu University, School of Medicine, School of Health Sciences

—Republic of Singapore



2016

1. シンガポール共和国の概要

1) 一般情報

1. 面積

約 716 平方キロメートル（東京 23 区と同程度）

2. 人口

約 540 万人（うちシンガポール人・永住者は 384 万人）（2013 年 9 月）

3. 民族

中華系 74%、マレー系 13%、インド系 9%、その他 3%

4. 言語

国語はマレー語。公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語。

5. 宗教

仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教

6. 略史

1400 年頃 現在のシンガポール領域にマラッカ王国建国。

1511 年 マラッカがポルトガルに占領され、マラッカ王国が滅亡。

マラッカ王国の王はマレー半島のジョホールに移り、ジョホール王国を建国。それに伴い、ジョホール王国によって現在のシンガポール領域が支配される。

1819 年 英国人トーマス・ラッフルズが上陸。ジョホール王国より許可を受け商館建設。

1824 年 正式に英国の植民地となる。

1832 年 英国の海峡植民地の首都に定められる。

（1942 年～1945 年） （日本軍による占領）

1959 年 英国より自治権を獲得、シンガポール自治州となる。

1963 年 マレーシア成立に伴い、その一州として参加。

1965 年 マレーシアより分離、シンガポール共和国として独立。

7. 政体

立憲共和制（1965 年 8 月 9 日成立）（英連邦加盟）

8. 元首

大統領（任期 6 年）、

他、参考 URL 参照 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html#01>



2) 主な研修エリア

チャイナタウンを基点に、研修先は地下鉄で10分～30分程度。
活動エリアはシンガポール全体。

2. 保健医療スタディツアープログラムの概要

1) 目的

異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療者としての態度を涵養する。

シンガポールでは、シンガポール市内およびシンガポール総合病院の保健・医療現場の見学や体験から、開発途上国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げる。

2) 目標

- ①異なる医療システムのもとでの協働のあり方を理解する。
- ②英語を使用する環境のもとで、生きた英語を修得する。
- ③他人種との交流を通して、異文化理解の一助とする。
- ④国際人としての態度を自ら育てる。

3) 研修期間

平成28年8月19日（金）～8月27日（土）（9日間）

参加者出国日 H28年8月19日

参加者帰国日 H28年8月28日

現地活動期間 H28年8月19日 ～ H28年8月27日（9日間）

4) 主な研修先

市内の複数種類の総合病院や教育機関を見学し、専門職等の実際や学習環境を知る。

SGH: Singapore General Hospital

SIT: Singapore Institute of Technology

NYP: Nanyang Polytechnic (School of Health Science)

Bright Vision Hospital

5) 参加人数

看護3名(3年生3名)、検査技術8名(2年生1名、3年生7名)、理学療法3名(3年生3名)、
合計14名(うち、4名はカーティンプログラムから合流)

6) 担当教員

引率: 山崎明美 講師、青木 薫 准教授(特定雇用)

国内・学内サポート: 国際交流委員会(Goh、山崎浩司、石田文宏、大平、杉山、奥村、川船(学務第二))

7) 研修費用

①研修費用概要

渡航費用：	86,250 円
宿泊費用：	19,500 円
保険料：	6,700 円
研修費（SGH 他研修機関およびバス移動費）	16,000 円
シンガポール国内交通費	約 1,000 円
日本国内交通費	約 20,000 円
<hr/>	
合計	約 149,450 円

②研修支援

10名の参加者が信州大学平成28年度グローバル人材育成事業による海外活動支援に応募し、採択され70,000円の奨学金が支給された。

8) リスク管理体制

平成23年度からは、信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS）の緊急事故支援システムに加入し、研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。本年度も当支援システムに継続して加入のうえ、プログラムを実施した。加えて、学生・教員全員が同じ旅行保険に加入した。

3. 研修プログラムの詳細

1. 研修先の概要

1) シンガポールの教育

今回訪問したシンガポールは国際都市であり、その教育や医療は国際的かつレベルが高い。その理由として、シンガポールは資源を持たない小国であることが挙げられる。資源の乏しいシンガポールでは、人々の働きによって何らかの「価値」を作り出さなければたちまち貧しくなってしまうという危機感がある。グローバル化が進む中で、全世界的に有力な企業の拠点をシンガポール誘致するというのは非常に重要なことになっている。そのような産業的な要請の流れの中で研究者・専門家の誘致も戦略的に考えられている。

加えて、複数の民族が共存することから、国を維持するために教育は大変重要な課題である。国家予算に占める教育費の割合が防衛費に次いで第二位であり、政府が教育に重点的に投資していることがわかる。

シンガポールでは小学校から厳しい選抜が行われ、優秀な生徒をエリート教育するシステムが整っている。シンガポールの基本的な教育制度は、小学校（Primary School）6年、中学校（Secondary School）4年、ジュニアカレッジ（Junior College）2年、大学（University）4年というコースである。進学するたびごとの選抜システムが特徴的である。シンガポール政府のホームページに詳しい記載がある。

さらに、大学、中でもPh.D. コースの大学院生や研究者に関しては、海外から研究の場を求めてシンガポールへと来た方が非常に多い。また、組織のトップにアメリカやイギリスで教育

を受けたトップクラスの研究者が多く、その理由の一つは、優秀な研究者が来れば、良い研究ができるだろうということのようだ。次に、英語ができることである。英語ができるというのは、単純に研究についてのコミュニケーションが英語でとれるということではなく、あらゆるコミュニケーションにおいて英語を使ってまったく不自由を感じないという意味が重要視される。シンガポール人は英語が話せるので、組織内でのコミュニケーションには困らず、欧米の研究者や専門家とのコミュニケーションにも困らないことによる様々な恩恵が見込めるといえることだ。

シンガポールの大学院は世界中の学生を積極的に呼び寄せている。奨学金制度が充実し、レベルの高い研究が出来るシンガポールには世界中から学生が集まってくる。なかでも、中国からの留学生が多い。

このようなシンガポールには、1905年に創立されたシンガポール国立大学 (National University of Singapore)をはじめとして、南洋理工大学 (Nanyang Technological University)、シンガポール経営大学 (Singapore Management University) など、7つの大学がある (2016年8月現在)。このうちのシンガポール国立大学の附属病院には、2014年に訪問見学した。

大学のほかに、ポリテクニク (Polytechnic) と呼ばれる。高等技術専門学校や高等専門学校と訳される3年制の学校で diploma を取得できる。ポリテクニクは職業に直結するような高度な専門知識を学び、日本でいえば高等専門学校のようなものである。訪問先の NYP (Nanyang Polytechnic) がこれにあたる。尚、NYP の理学療法・作業療法・放射線学科等は、2017年度より、SIT : Singapore Institute of Technology に移管される。

2) シンガポールの医療

シンガポールの医療は元々医療水準の高い都市であるが、さらに国策として外国の医師免許 (条件付き) を認めていることで、外国人医師も多く、同時に外国人の医療従事者も多くいる。

私立総合病院の経営システムは日本と異なる。シンガポールの私立病院では、OPEN SYSTEM を採用しており、各専門医は独立した開業医として、病院内の施設をテナントとして借り受けてクリニックを開業しており、検査や処置、入院が必要な時は病院の施設を借りて行う。また、各クリニックのスタッフは医師が直接雇用しており、運営や診療方針も全てその医師に委ねられている。

公立病院は日本の総合病院と同じシステム (CLOSED SYSTEM) で医師もそれぞれの病院に所属しており、ひとつの病院で検査から治療、入院まで全て行うことができ支払いも一度で済ませることができる。訪問先の SGH は CLOSED SYSTEM である。

3) 訪問先 SGH : Singapore General Hospital

SGH は 1821 年創設のシンガポールでは一番歴史があり、最大である。と同時に、アジア圏においても最大規模であり、高度な医療技術と豊富な人材を誇る。1900 年代初頭に医療と看護の学校が設立されて以降、SGH は医療教育の中心になっている。多くの優秀な医療従事者を輩出し、国内の学部生、大学院生そして医療専門スタッフの教育に携わっている。国外からの研修生の受け入れも行なっている。

キャンパスの広さは 18 ヘクタール、SGH だけで 8 ブロックある。シンガポールでは第 3 次救急病院としての役割を持った最大の病院で、5 つの専門領域の医療センターを擁する。

約 2000 床のベッド数と 600 名以上の専門医、約 4000 名の看護師、他専門職を抱え、年間約 7 万人以上の入院患者、約 100 万人の外来患者に対し、約 1 万人のスタッフで対応している。

35 の診療科目の他、病院敷地内にある 5 つの専門医療センター、眼科、循環器、がん、歯科、

脳血管疾患のセンター棟があり、患者は専門治療を受けることができる。さらに、来る高齢化社会に備えて、2016年に地域ケア部門を設置した。

また、院内には、現任教育専従担当者がおり、その担当者が院内専門職のみならず、外部からの様々な研修生の対応も行うシステムが構築されており、今回の本学の研修でも担当していただいた。大規模かつ最先端の医療水準を保持しようとする院内システム、加えて、高い水準のサービス提供への誇りとそれを支える専門職現任教育システムを維持している。

HP: <http://www.sgh.com.sg/Pages/default.aspx>



Singapore General Hospital 初日オリエンテーション



Singapore General Hospital : SGH のスタッフと

4) 訪問先 SIT : Singapore Institute of Technology

SITは2009年に設立されたシンガポール5つ目の大学であり、Polytechnic等を卒業した学生に、さらに高度な専門教育を提供している。シンガポール内に6つのキャンパスを持ち、約4000人の学生の教育を行っている。国際交流にも力を入れており、10校の海外大学と提携を結び、学生の研修プログラムが提供されている。医療系では、看護、理学療法、作業療法、診断放射線、治療放射線の学科を有している。

HP : <http://www.singaporetech.edu.sg/>

5) 訪問先 NYP : Nanyang Polytechnic (School of Health Science)

NYPは1992年に創設された。ヘルスケア科とビジネス科から始まり、翌年、エンジニア科や

IT科も設置され、その後いくつかの科が増設されてきた。30ヘクタールのキャンパスに、15000名の学生、1300名のスタッフを擁する。

ヘルスケアの分野には、看護、歯科衛生、社会福祉、理学療法、作業療法、診断X線撮影と放射線療法の専攻が設置されている。各学年の学生数は、理学療法・作業療法は約100名、看護は約650名。看護専攻の場合、最大規模の教室での収容人数が280名のため、1学年につき同じ内容の授業を3回提供している。理学療法・作業療法は、2014年9月入学生から、アイルランドのダブリン、トリニティカレッジとの提携により大学化された。

HP：<http://www.nyp.edu.sg/shs/school-of-health-sciences>

理学療法→Trinity College Dublin, Diploma in Physiotherapy in NYP, Singapore

<https://medicine.tcd.ie/physiotherapy/singapore/>

6) 訪問先 Bright Vision Hospital

BVHは、コミュニティ病院に位置付けられる約300床の病院である。1年につきおよそ1200人の新しい患者に中長期のケアサービスを提供している。

BVHは、患者の身体的かつ精神的、スピリチュアル、社会的な健康について、統合された健康プログラムを提供している。

BVHの概要紹介ビデオはURL参照。

HP：<http://www.bvh.org.sg/about-bvh/bvh-story.html#null>

2. 研修プログラム

Itinerary for study tour Singapore 2016 Shinshu University, School of Health Sciences, International Programme: Short-term studying Course

date		time	activity/address	cordinator/lecturer	reward,other
22	Mon	10:00	SGH: Singapore General Hospital :Academia, Tour:14students, Introduction to SingHealth & Ministry of Health Healthcare System (presentation by Celia) Proposed itinerary: - Introduction - Movement Science Lab - IMSE	Prof. Celia Tan Ia Choo (SGH): Group Director, Group Allied Health Singapore Health Services Shirley Toh Gek Choo (SGH): Senior Executive K. Aoki/A. Yamazaki	
		-16:30	PM Combined Tour of SGH facilities Proposed itinerary: - Life Centre - SGH Museum - Inpatient Rehab Centre - Rehabilitation Centre - Nursing Simulation Rooms		
23	Tue		SGH / PGAHI AM & PM Individual Attachment to departments	K. Aoki/A. Yamazaki PT, Biomedical Sciences & Nursing (to be coordinated by PGAHI)	
24	Wed	8:00-11:00	8:00 Bus pick up time at the Porcelain Hotel Visit of SIT 14students SIT: Singapore Institute of Technology 10 Dover Drive, Singapore 138683 email: singaporetech.edu.sg TEL 6592 1189	K. Aoki/A. Yamazaki	
		11:00-13:00	Lunch at SIT Bus pick up time;13:00 at the tower block main foyer = the pick up and drop off point.		
			In your plan, please visit here. Gardens by the Bay,Marina Bay Sands 18 Marina Gardens Drive, Singapore 018953, Wonder Full:Water Show(Duration 15min) http://www.marinabaysands.com/entertainment/wonderfull.html		

date		time	activity/address	cordinator/lecturer	reward,other
25	Thu	8:00-10:30	8:00 Bus pick up time at the Porcelain Hotel Visit to NYP 14students Address:Singapore Institute of Technology 10 Dover Drive Singapore 138683 9.00 - Welcome and NYP corporate video 9.15 - Interaction and Q&A on SHS programs 9.30 - Tour of facilities - Level 4 Nursing & Geron Labs - Level 2 PT labs - Level 3 PT Teaching Clinic - Level 3 SHS Simulation Centre & NYP HIMMS CoE 1030 - End of tour	K. Aoki/A. Yamazaki	
		11:00-12:30	Lunch at NYP		
		13:00-16:00	13:00 Bus pick up time at NYP Visit to BVH 14students	K. Aoki/A. Yamazaki	
		16:00?	16:00? Bus pick up and trip to hotel		
		18:00	Option: Night Safari: http://www.nightsafari.com.sg/ 80 Mandai Lake Rd,Singapore 729826 (65) 6269 3411 *Bus:Pickup time: 18:00 (at Porcelain Hotel in Chinatown) *Drop off location: Night Safari *Return Trip pickup time: 23.00 pm (at Night Safari) *Return Trip Drop off location: back to Porcelain Hotel in Chinatown *No. of passengers: 15 pax	K. Aoki	38S\$ BUS(to N.S.) 80S\$ BUS(to Hotel) 90S\$

date		time	activity/address	ordinator/lecturer	reward,other
26	Fri		Peranakan museum (or National Museum of Singapore-SingaporeHistory Gallery) In your plan, please visit here. * http://www.peranakanmuseum.sg/ 39amenian St. (65) 6332 7591 * http://nationalmuseum.sg/ 93 Stamford Road S(178897) Tel:(+65) 6332 3659 / (+65) 6332 5642	K. Aoki/A. Yamazaki Peranakan---10:30 Japanese Guide tour(free) http://peranakanmuseum.org.sg/visit-us/tours National---10:30 Japanese guide tour http://nationalmuseum.sg/visitors-info/guided-tours	Peranakan 6S\$(student 3S\$) National 10S\$(student 5S\$)
27	Sat	18:30	FREE DAY *Bus Pick Up Time: 18:30pm The meeting place is Porcelain Hotel in Chinatown *Drop off location: Changi Airport Terminal 2 (NH844) and Terminal 3(SQ638) No. of passengers: 11 pax (NH844) and 5 pax (SQ638)	K. Aoki/A. Yamazaki	COST: 85S\$ (cash)
		22:15	Dept. NH844 (to Haneda) (A. Yamazaki group) Singapore Changi International Airport, 2nd terminal ANA Check in Counter		
		23:55	Dept. SQ638 (to Narita) (K. Aoki group) Singapore Changi International Airport, 3rd terminal SQ Check in Counter		
28	Sun		Arri HND 6:30 (A. Yamazaki group) Arri NRT 8:00 (K.Aoki group)		

SGH = Singapore General Hospital <http://www.sgh.com.sg/Pages/default.aspx>
<https://www.facebook.com/SingaporeGeneralHospital>
 NYP = NANYANG POLYTECHNIC (SCHOOL OF HEALTH SCIENCE) <http://www.nyp.edu.sg/>
 BVH = Bright Vision Hospital <http://www.bvh.org.sg/> <https://www.facebook.com/brightvisionch>

[Accomodation]
 5Footway.Inn
 63A Pagoda Street Singapore(059222)

[Accomodation]
 AYamazaki (19-27Aug) / KAoki(21-27Aug)
 Porcelain Hotel by JL Asia
 48 Mosque Street Chinatown Singapore 059526

[Contact Emergency]
 AYamazaki
 Tel: +81 90 1778 4405
 Mail: ak-visuranus12@siren.ocn.ne.jp



4. 学生アンケート【14名】

参加者数	1年	2年	3年
看護学専攻			3
検査技術科学専攻		1	7
理学療法専攻			3
作業療法専攻			

I 出発前の準備について

1. 研修プログラムへの参加動機

- ・元々、海外には興味があって学校で行くプランなら安全であるし、学べるのでせっかくの機会なのでと思い参加しました。
- ・海外に行ったことがなかったので、学生のうちに海外を経験するにはいい機会になると思ったから。
- ・海外に出て、視野を広げたかったため。また、シンガポールと日本の医療の違いについて学びたかったため。
- ・海外の病院や医療を見れる機会は普通の旅行では経験できないことであり、人種や言語のサラダボールといわれるシンガポールの文化について興味があったため。
- ・外側から日本の医療についてみてみたかったため。研修プログラムが自分にとってよい経験値になると思ったため。
- ・海外の医療の様子やPTの立場に興味があったから。
- ・シンガポールの医療現場を見てみたいと思ったため。
- ・海外に行ったことがなかったので、大学が主催している研修なら安心していけると思ったから。シンガポールに行ってみてみたかったから。
- ・海外の医療事情と日本のそれにどのような違いがあるのかを見てみたいから。
- ・友人たちと共に貴重な研修を経験することが出来ることに魅力を感じた。また、シンガポールという国自体にも興味があり、観光も楽しみたいという不純な動機もあったことは否めない。
- ・シンガポールのPTについて知っていた。
- ・Curtinプログラムから参加でき、日本・オーストラリア・シンガポール3つを比較できる良い機会だと思ったから。発展を遂げているシンガポールで自分の専門分野の環境・内容は日本と違うのか知りたいと思ったから。

2. JCSOS または短期海外活動支援の補助金以外の費用の捻出

- | | | | |
|------------|-----------|---------------|--------|
| 1) 家族が全額負担 | 2) 自己資金のみ | 3) 自己資金と家族の補助 | 4) その他 |
| 7人 | 2人 | 5人 | 0人 |

3. 渡航前の自己学習

1) 自己学習をした

学習内容【14名】

- ・eALPS に載っていた資料には目を通し、あとは語学についても少し。
- ・eALPS に提示された資料を読んだ。

- eALPSのシンガポールの文化や医療についての資料やオリエンテーションで教えていただいた英語の動画を見た。
- 英語のリスニング。
- シンガポールの医療制度などについて(私立病院と国立病院の違いについてなど)。
- 事前にeAlpsにアップされた試料を参考にした。また、英会話の勉強としてはラジオを聞いたりした。
- シンガポールの概要、医療の現状。
- 英会話。
- 英語の特にリスニングや配布資料によるシンガポール医療の知識。
- 大学がアップした資料を読んでいった。
- 事前に配布されたシンガポールの資料のみ。
- 英語。シンガポールの医療について。
- シンガポールの医療制度や国の概要(人口、面積、人種、食べ物、暮らし)。
- 先生から掲示された資料を読んだ。簡単な英会話。

2)何もしなかった 0人

事前学習が必要だと思った内容

- もっと事前に英語で質問を考えてくるべきでした。

4. 研修プログラムの説明会の時期

適切 YES 13人
NO 1人

いつが適切でしたか？

- テスト期間に被らない時期。

5. 参加申し込み締め切りの時期

適切 YES 14人
NO 0人

6. オリエンテーションについて

1)時期

適切 YES 13人
NO 1人

いつが適切でしたか？

- 最後の説明会から研修までの期間が長くて少し不安でした、試験の関係があるのはわかりますが。

2)オリエンテーションの内容

YES 12人
NO 2人

不足していた内容は？

- 研修費などの費用の連絡。

・実際の研修内容について。

Ⅲ J-TAS の利用状況について

海外留学生安全対策協議会 (JCSOS) が提供しているサポート (J-TAS) について

- 日常生活面について相談できる「海外危機管理サポートデスク」、健康面について相談できる「海外健康電話相談サービス」について、利用の有無、利用した場合はその内容 (差し支えない範囲で結構です) を教えてください。

利用した 0 人
 利用していない 12 人

- これらのサービスが利用できる状況があつて、良かったと思いますか？

利用できなくても問題なかったと思う 1 人
 どちらともいえない 6 人
 利用できる状況があつて良かったと思う 3 人

* 利用できなくても問題なかったと思った場合は、その理由を書いてください。

- ・ホテルではインターネットを使うことができたので教員と連絡を取ることができまし、教員が近くのホテルに滞在していたため安心だったから。
- ・教員など他に頼れる場所があつたから。

Ⅴ 研修コースについて

- 英語以外の授業についての満足度 (人数)

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①始業時間、授業の時間について			2	7	5
②授業の内容について		1	2	6	5
③授業のレベルについて			4	6	4
④全体としての満足度			1	8	5

- 施設等の見学 (体験含む) についての満足度

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①見学の時間について			2	5	7
②見学の内容について		4	3	4	3
③見学説明のレベルについて		1		8	5
④見学施設について		1	4	5	4
⑤全体としての満足度		4		7	3

1) 全体としての満足度が“やや不満”または“非常に不満”だった具体的内容

- ・今回の参加した学生の半分が検査専攻であったのにSGH以外では技師さんからの話を聞けなくて物足りなさを感じてしまいました。毎年、打ち合わせもあると思いますができれば考慮していただきたかったです。

- ・自分のリスニング力が乏しくて、スタッフの説明があまり理解できなかったし、大学入学後に英語力が著しく低下していることにショックを受けた。PTの学生はあらゆる施設でPTに関係する話を聞くことができたが、看護と検査は少なかった。
- ・シンガポールでは、日本よりもPTやOTが活躍しているということも事前にわかっていたが、検査関連の施設の見学が実質2日目のSGH見学のときだけであったため、もう少し多いとよかった。また、SGHでも通常業務があるため調整が難しいとは思いますが、反映されるかどうか分からないとは聞いていたが見学希望を伝えても、去年と同じ検査室の見学であったため、少し残念だった。
変更が困難なようであれば来年からは学生からの希望はとらなくても良いと思う。
- ・各専攻のことを学ぶことができたことは良かったが、少し検査の内容が少なかったように感じた。
- ・他の専攻メインでわからないことが多かった。
- ・検査に関する見学が少なかった。PTや看護の見学をしてもそもそもがあまり知らないことなので、さらに英語の説明となると内容がわからなかったです。専攻別の見学は非常に勉強になってよかったです。
- ・施設見学は主にPT・NSの内容が主だったので検査に関する内容が全体的に少なかった。

2) 一番印象に残った見学先を1つ挙げ、その理由を書いてください。

- ・SGH。4つの検査室を案内してもらい充実した一日を送ることが出来大変満足した。
- ・SGHでの臨床検査部のウイルス検査室。実際に体験して自分でも考えながら学べるのがよかった。
- ・SGHのウイルス検査室。まだ大学での授業ではあまり触れていないが、検査技師の方が対話を交えての説明をして下さり、わかりやすかったため。
- ・SGH 大きな病院で先進医療を学ぶことができた。また専攻別での見学ではいくつかの検査部を見学させていただき、また、それぞれ丁寧な説明をしていただけたため。
- ・SGH。実際に現場で働く医療者が更なる医療の進歩について行くため技術練習を行える環境があること、またそれが病院の敷地内にあることに驚いた。
- ・SGH。理学療法士と1対1で研修をさせていただいて、シンガポールのリアルな理学療法を見ることができたから。
- ・SGHが一番印象的だった。特に、専攻ごとに分かれての見学では何カ所か回らせていただき、詳しい説明を聴くことができたため。また、難しい内容では、実物を実際に見せて頂いたり絵や単語を書いて説明して下さり、非常に理解の助けとなったため。
- ・SGHが最も印象に残りました。SGHでは生徒1人につき1人のPTについて頂いて見学することができました。各々見学した内容が異なりPT3人で共有することにより多くの情報を得ることができました。また、PTの方との距離が近く、質問も比較的気楽に行うことができ、よかったです。外来と入院患者の両方を見れたことも良かったです。
- ・SGH。専攻別に見学ができ、より専門的なことを学べたから。
- ・SGHの2日目。日本と同じような検査をしていたり日本にはないような手技を見学できたためこれからの病院実習等で役に立つと感じたから。
- ・SGH。現地のPTについて患者さんを見られたのはとても刺激になったから。またシンガポールに医療の理解につながったから。

- SGH:唯一見学できた自分の専門分野の施設であるから。各分野の部屋でとても丁寧に説明をしてくださったから。また、日本に比べ効率の良い方法で検査を行っていると感じた。
- SGHにおける病棟見学が大変印象に残っている。日本とシンガポールの医療の違いを目で見て感じ取ることが出来たため。また、医療の違いはその国の文化や生活の仕方によって大きく変化することを学び、衝撃を受けたことを覚えている。
- NYPが一番印象に残った。看護の学生が勉強する設備を見学したが、信州大学の保健学科にはない設備があり、いろいろ発見できた。現在3年生なので、今までの授業で使用した演習室と、NYPの施設を比較しながら見ることができたのが面白かった。

4. (1) 英語を使つての積極的会話

まったく積極的に 行えなかった	あまり積極的に 行えなかった	どちらとも いえない	やや積極的に 行った	とても積極的に 行った
	3	2	7	2

(2) 今後、英語力アップのため、TOEIC や IELTS などの英語試験を受けようと思いますか

まったく 思わない	あまりそうは 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
	4	1	5	4

5. コースを通して、よかったこと

- シンガポール研修ではカーティン研修とは違いホームステイではなかったので英語を使う機会はあまりなかったり現地の人と触れあう機会が少ないのは承知であえて積極的に現地の人に話しかけ英語でシンガポールについて聞いたことは大きかった。多国籍国家であるのもあり、シンガポール1国だけで様々な文化に触れられたよかった。
- SGHで専攻ごとに分かれて病院内を見学した際、一日ついて回ってくださったスタッフの方(ミニーさん)がとても丁寧だった。私たちが聞き取れるようにゆっくり話すように心がけてくれたり、わからない専門用語を別の言葉で説明してくれたり、私たちの拙い英語を理解しようと努力してくれたり、ずっと笑顔で対応してくれた。
- 様々な施設の見学ができたこと。シンガポールの歴史についても学ぶことができたこと。
- 英語のリスニング力が上がったように思います。また、積極的に自分から話しかけられるようになった点は良かったです。国は違えど、行っている検査自体は同じであり、授業で学んだものから通じるものを様々な場所で見つけることができたため、今後の学業に対するモチベーションの向上につながったと思います。
- 研修や観光を通して徐々に積極的に英語を使えるようになり、コミュニケーションをとれるようになったこと。さまざまな専攻について幅広く学ぶことができ、また専攻のことについては詳しく勉強できたこと。
- いくつかの施設を回る事ができたこと、また、SGHでは各専攻ごとに詳しい説明を聴くことができたこと。シンガポールの医療について知ることができたこと。観光する時間もあつたこと。
- 病院以外にも観光をたくさん楽しむことができ、シンガポールを満喫した。
- 今まで交流のなかつた他の専攻の人と話す機会があり、うれしかった。

- PTに関わる見学が多かったため様々な施設を見れてよかったです。施設の方も聞き取りやすいようにゆっくりはっきり話してくれる方が多く助かりました。様々な質問にも丁寧に答えていただけてよかったです。妊婦のPTを見ている人もいたので私も見てみたかったとは思いました。
- 海外の病院の内部をスタッフの丁寧な解説と共に見学できたこと。
- 病院見学以外にも、シンガポールの様々な観光地を巡ることができた。いろんな国の人が出て、文化の違いをたくさん感じる事ができた。5人部屋であったので、共同生活をみんなで楽しく送ることができて楽しかった。いろんなご飯が食べれてよかった。
- シンガポールのPTの教育現場から臨床まで見ることが出来、総合的な理解に繋がり、刺激を受けられたこと。また、自分の興味ある分野について見させてもらえたこと。
- シンガポールの理学療法について知ることができた。知識として知っていたことを実感できたのが良かった。
- 1つ1つの施設の説明が丁寧で時間をかけてくださったこと。研修を十分行った後でも観光をする時間があつた事。
- シンガポールと日本の医療の違いについて目で見て、肌で感じる事が出来たこと。また、英語に囲まれた日常の中で生活することにより、自身の英語力を実感することが出来た。「英語をもっと話せるようになりたい」「英語を勉強しなくてはならない」と強く感じ、今後の勉強に大きな影響を与えることが出来たと感じている。

6. コースを通して、困ったこと

- 英語がもっと話せたらよかったこと、暑さに負けない体力を作っておくべきだったことが自分の中での困ったことです。
- 英語が聞き取れないこと。専門用語だけでもできるだけたくさん頭に叩き込んでからいけばよかったかもしれない。
- 検査専攻の場合、学習内容が他専攻と共通することはほとんどないので、理解しづらいことがどうしても出てくる。理解を容易に進めるためにも他専攻について事前に学習しておくとうい。
- 検査関連の説明は、基礎知識がある程度あつたため英語での説明でもかなり理解できたが、PTやOT関連の説明は基礎知識が少ないこともあり理解するのが非常に大変だった。
- 四人部屋で部屋の鍵が一つしかなかったが、常に四人一緒に行動できるわけではない(専攻ごと帰宅時刻が違ったり、観光で行きたい場所が違ったり、コインランドリーに行きたい人がいたり)ので、自由が利かず、ときには部屋に入れなくて困った。追加のデポジットで鍵をもう一つもらえることが分かりましたが…。
- ホテルの部屋が非常に狭く、スーツケースを広げるのにも苦労したこと。
- 夜は観光で忙しいが、お世話になる施設の方への手紙や、研修の一日のまとめの日記を書かなければならなかつたのが、時間がなくて大変だった。お互い疲れているのは分かるが、人任せにしないでみんなでやってほしかった。
- 見学時に後ろの方になったときに説明の声が聞こえにくかったり、施設や物が見れなかつたこと。また、日本と教育制度が大きく異なるために教育制度を理解することが難しく説明が理解できない点があつた。事前に教育制度についての学習が必要であつたと感じた。
- 毎日朝が早かつたため起きるのが少し大変でした。調節可能であれば30分だけでもゆっくりできるといいなと思ひました。(施設側の都合もあるため仕方がないとは思ひますが。)

- ・食事がなかなか食べられるものが少なくて困った。辛い料理が多かったり、味付けが苦手なものが多かったりと食べられるものを見つけるのに苦労した。日本食のお店はあったけど、高いお店ばかりで入れなかった。ホテルの水回りがとても汚かった。トイレとお風呂がもうちょっとしっかりしているところがよかった。
- ・現地のスタッフによっては話すのが速かったりなまりが強かったりしてうまく英語を聞き取れなかった。
- ・食事を毎日どこで食べるか考えるのが楽しくもあったが大変でもあった。
- ・自分の英語力が低すぎて、話を理解することが困難だったり、思うように自分の言いたいことが伝わらなかったこと。これは自分自身の問題だと痛感した。
- ・他の専攻のことについては、そもそも日本での現状を知らないなので、比較することができなかった。

7. コースについての要望

- ・もし可能であれば現地の学生と関わる時間がほしいです。
- ・参加する学生の専攻を考慮した研修内容であるとより良かつす。
- ・SGHで専攻ごとに病院内を回った日がとても充実していたので、専攻ごとの見学がさらに増えるとよい。
- ・可能であれば、検査関連の見学をもう少し増やしてほしい。
- ・もう少し一つ当たりの研修時間をのばして、深く知ることができるとよいなと思った。施設の滞在時間が少ないとどうしても概要だけの説明になってしまいがちになる。
- ・KKHに行ければより良かった。
- ・宿泊環境がもう少し良くなってほしい。
- ・研修の日はもうちょっと余裕を持った日程にしてほしい。たくさん歩いたり、英語を理解しようとするのでいつも以上に疲れが出るので、1日に詰め込みすぎないで、もう少し日程を増やしても分散してほしい。
- ・もう少し臨床的な病院の検査室を見学したかったです。もう少しお金を出してもよいのもう少し良いホテルに宿泊したい。
- ・もう少し検査の内容があればよかった。
- ・特に要望はない。満足のいく研修だった。

8. 研修全体に対する評価。

	大変悪かった	悪かった	どちらともいえない	よかった	大変よかった
①実施時期について			1	7	6
②期間について				10	4
③コースの構成について			2	10	2
④研修先のスタッフの対応			1	3	11
⑤信州大学教官の対応			1	4	9
⑥全体としての評価				9	5

9. 今回の経験の意味と今後の学習・進路などへの影響

- ・日常では大学でもっと英語を学ぶ機会があるので英語を勉強して海外旅行に行くときに役立てたいのと、多くの文化に触れて自分にとっていい刺激になってほしいと思いました。シンガポールは先進国で多国籍国家で様々な国の人が働いていて生き生きしているように見えてこんな風に私も働きたいと思いました。今は大学院に行くことを考えていたりもしますが、海外に行くのもいいと思いました。
- ・シンガポールと日本の医療や文化の違いを知ることができ、考え方の違いについて知ることができた。また、今後の学びの中でも、一つの考え方に固執せず異なる意見も理解する手助けになると感じた。
- ・異なる文化・社会を体験できた。シンガポールに住む人は、母国語だけではなくみんな英語を話せる。日本は日本語だけで生きてしまう。英語を使わなければならないという環境になれば、英語力は上達しないのだなと思った。英語でのコミュニケーションの上達や力試しのために、もっと海外に行ってみたいと思った。シンガポールの世界トップクラスの医療を見ることができた。
- ・今回研修に参加し、海外の人たちに日本の医療について説明できるようになりたいと思った。また、この先、病院でも英会話が必要になってくるかもしれないので、もっと英語の勉強をしたい、話せるようになりたいと思うきっかけとなった。
- ・シンガポールの医療制度や、教育制度を学ぶと同時に日本の制度の利点や欠点を見ることができた。欠点となる部分は自分の行動で補うことで残り少ない学習できる期間をより良いものへとしていきたい。進路についても、このままルールに沿って就職でいいのかと考え直させられた。
- ・国は違えど、行っている検査自体は同じであり、授業で学んだものから通じるものを様々な場所で見つけることができたため、今後の学業に対するモチベーションの向上につながったと思います。また、研修だけでなく観光も通して海外でも自分で考えて行動づることができたことから地震につながったと思います。
- ・今回の経験は私にとってとても新鮮で貴重な体験となりました。今回の研修を通して視野を広げることができ、今後自分の進路について考える際に大きく影響すると思います。いままで見ていた視点とは異なった新しい視点から物事をとらえることが出来るようになったと感じます。また、海外に行ったことで自分の考え方が変わり今までとは違う考え方ができるようになりました。
- ・英語でコミュニケーションをとれることの重要性を改めて感じました。英語ではうまく伝えきれないことがあったりして、聞きたくても質問しきれないことがありました。また、シンガポールのPTはシンガポールが多国籍の人の住む国であることもあっていくつかの言語を話せていたので英語で躓いているわけにはいかないと感じました。
- ・海外と日本では病院の仕組みがどのように異なるのかが視覚的にとらえることができた。またこれを機に将来的に海外で働くことも視野に入れようと思った。
- ・理学療法の差が分かり、モチベーションが上がった。
- ・初めての海外を体験することができた。歴史、生活、観光など様々な面からシンガポールを知ることができ、今までよりも視野が広がった。病院見学も、日本との違い、同じ点を知ることができてよかった。今後の病院実習や就職してから、今回の経験を生かして、広い視野を持って物事を考えられるようになればいいと思う。

- ・今回の施設見学は全体として理学療法に関わる分野が多かったように思う。理学療法の教育から現場まで幅広く知ることが出来たことにより、より深くシンガポールの理学療法について理解できたと思う。日本とは異なる教育制度・理学療法の制度のため簡単には理解できなかったが、日本との差異や類似点を見つけることは同時に楽しくもあった。海外で行われている素晴らしい点はどんどん日本にも取り入れていくべきだと感じ、そのために常に海外にアンテナを張っているような医療者でありたいと思う。
- ・自身の英語力を実感するには本当に良い機会だったと感じている。自分の勉強不足を感じ、もっと英語を勉強したいと思うきっかけとなった。また、初めての海外渡航であったこともあり、世界の広さと自分の無知さを感じる事が出来た。この研修を通して、海外の医療に大変興味を持ち、また、英語をうまく話せるようになりたいという想いが強くなった。今後の実習や勉学に良い影響があったと感じている。
- ・自分の専門分野だけでなく他の専門分野についてつも学ぶことができ、視野の広い医療人になりたいと感じた。1週間(Curtin プログラムからの3週間)、自分の英語にも自信が付きこれからは英語の学習を続けていこうと思ひ、将来国際的に活躍できる医療人になりたいと感じた。

5. 学生レポート

1) はじめに

8月19日から8月28日に行われたシンガポール研修に参加した。積極的にプログラムに参加することが出来、とても密度の濃い時間を過ごすことが出来た。医療体制をはじめとする日本との違いを自身の目で見て感じ取れた。

2) 施設見学について

① 1日目：Singapore General Hospital(SGH)見学

まず午前中にSGHについての説明をして頂いた。SGHは日本でいう総合病院であり、シンガポールの中心的医療施設である。ここで特に興味を引いたことは、病院でスマートフォンのアプリケーションを利用することがあるということである。紹介して頂いたのはTKAに対する膝に関するアプリケーションだった。健康は自己責任であるというシンガポールの健康に対する基本的な考えが表れているように感じた。午後には主に外来患者のリハビリテーションの見学をさせて頂いた。さらにLIFE centerという施設を紹介して頂いた。主に糖尿病患者の訪れる施設でありここで理学療法士と一緒に運動を行っているそうだ。このような施設があることは、疾患の悪化を防ぐ点でとても有効的であると感じた。また糖尿病が進行した場合も、より専門的な治療が受けられるDiabetes & Metabolism centerという場所で治療を行うことが出来る。このように生活習慣病に対する施設がきちんと整っていることに驚いた。またシュミレーションルームを見学させて頂いた。シュミレーションルームは医療チームで使うことが出来、本場さながらの環境で練習が出来るようになっていた。

② 2日目：SGH各専攻での見学

2日目は専攻ごとに分かれての見学であった。まず理学療法学専攻では、1人の生徒につき1人の理学療法士について実際に患者さんを治療しているところを見せて頂いた。午前中には入院患者のいる病棟を、午後は外来患者のいる病棟を見学させて頂いた。それぞれの病棟に十分な器具が整っていることに驚いた。入院患者は脳神経系や整形系など日本の大病院のように病棟が分かれており、治療の多くはベッドサイドか廊下で行われ、必要であれば

ば少し小さめの理学療法室で治療を行うそうだ。患者は入院が決まってから基本的に短期間で退院し、自宅からの通院またはリハビリテーションセンターへと移る。そのため早期よりリハビリテーションを行い、自宅に帰れるほどの機能回復を行うことが最大の目的となっている。また、シンガポールの理学療法士は医師の処方なしに自身で診断を行い治療を行うことが出来る。今回の見学は主に診断を行うところを見させて頂いた。信州大学の授業で理学療法推論を習ったが、そこで教わった流れをととても早く正確に行っていた。これらの治療の他に入院患者に対する理学療法では、妊婦や乳児に対して行う理学療法があるなど、理学療法を行う幅も広いことを実感した。日本も広まってほしい分野であると感じた。

次に検査技術科学専攻では免疫血清検査室、ウイルス検査室、細菌検査室、輸血部の見学をした。免疫血清検査室では、検体の処理順序の方法、ELISA や T-spot、FANA などの説明を聞き、FANA と T-spot については実際に顕微鏡で見せて頂いた。ウイルス検査室では防護服を着て見学をした。検査は①ウイルスの分離と培養②免疫蛍光法による抗体抗原検査③ウイルス血清検査の検査に分けられていた。培養はコンタミネーションを防ぐため、専用の部屋があり厳重に管理されていた。①では培養した患者由来の細胞株を顕微鏡で見て、感染の有無を判断する。実際に陰性検体と陽性検体を見せてもらい、自分たちで特徴をあげることのできるウイルスに感染しているかの説明を受けた。検体は試験管のまま顕微鏡で見るタイプで、感染やコンタミネーションの防止、生きたままウイルスを観察するためだそうだ。③では検体をバーコードで管理しており、パソコンに入っているプログラムにより陰性陽性の判定までわかるため迅速な検査が行える。細菌検査室では平板培地への細菌の塗布の仕方など異なる点を知る一方、血液寒天培地やセレナイト液体培地など授業や実習で扱ったものも多く見られた。薬剤感受性検査では、ディスクを一度に置くことができる機械の効率の良さに皆感動した。細菌検査室では寄生虫の検査も行っていた。最後に輸血部の見学に行った。製剤の管理方法など基本的な部分は日本と同じだが、SGH では管理している血液製剤を SGH 以外に4つの病院へ血液を供給していることがちがいであった。また輸血の依頼および調剤をロケットのようなもので病棟とやり取りしており、病棟ごとの蓋の色分けや、内蔵されたコンピューターでの管理といった、取り違えが絶対に起きてはならない輸血部だからこその工夫がなされていた。

最後に看護専攻については外来や病棟を見学した。来院者は病棟に入る際に改札を通過しなければならない。これは、感染症のアウトブレイクを防ぐためのシステムである。患者の家族も入場するためのバーコードを発行しなければ改札を通ることができないし、スタッフも同様である。これは信大病院でも見たことがないシステムで感染症防止への意識の高さを感じられた。脳神経の病棟には患者を運搬するためのリフトがすべての患者のベッドからトイレやシャワールームに張り巡らされていた。これは看護師の負担を軽減するための設備であり、大変便利なのだろうと思った。また体位変換の目安となるカレンダーのようなものが目についた。自力で動くことができない患者の褥瘡予防として看護師は体位変換の援助をする必要があるが、このカレンダーのようなものに2時間ごとにどの向きに臥床するかを決めたものが絵を用いてわかりやすく書かれており看護師は混乱せずに体位変換の援助ができる。次に内科の病棟を見た。紹介していただいたのはバイタルサイン測定をする機械で、パソコンにつながっており、自動的に電子カルテに記録されるシステムになっている。また、患者が服薬する薬は患者の ID を入力して必要な薬が入っている引き出しが開く仕組みになっているので安全だ。そしてナースステーションはシンプルで、パソコンとカルテ程度しか置かれていなかった。すっきりしていて印象に残った。

③ 3 日目 : Singapore Institute of Technology (SIT)

シンガポールの教育制度は日本と全く異なる。小学校6年間の義務教育の後に日本でいう中学校が4年間ある。この後にジュニアカレッジで2年間勉強した後に大学に行き diploma を取得するか、ポリテクニクで3年間の勉強した後に1年間働き diploma を取得する2つの方法がある。SITは4年間で diploma を取得できる教育機関である。講義室は大きく、実技を行う部屋は生徒2人に1つベッドがあり、7台のモニターによって先生が行なっている様子を映し出すことが出来る。今後4年制の大学に教育を統合させていくと聞き、大学の制度自体は日本の方が整っているように感じた。

④ 4日目：Nanyang Polytechnic(NYP)・Bright Vision Hospital(BVH)

ここでは理学療法専攻、看護専攻を見させて頂いた。説明の中で一番興味深かったのは、この大学で行っている研究である。それは Wii Fit で使われているような安価な動作解析機とスカイプを用いて、患者が家に居ながら医療者は患者の体調や運動などのデータを知ることができるというものだ。この研究が実用的になれば患者と医療者の負担を減らせる。また、シュミレーションルームは人形に話かけると答えたり、脈を実際に測ることが出来たりとても高度であった。早期より実践的な学習が出来ることはこの学校の強みであると感じた。

午後には BVH の見学をさせて頂いた。この病院は国立病院であり、地域の中核病院となっている。この病院で1番興味深かったことは、入院患者のいる各エリアに理学療法と作業療法を行うスペースがあったことである。シンガポールではどんな病院でもリハビリテーションの重要性が認識されていることが分かった。

⑤ 最後に

約1週間という短い期間だったが観光を含め様々なことに気づき、有意義な時間を過ごすことが出来た。このような貴重な機会を与えてくださった教員の方々をはじめとするこのプログラムに関わったすべての方への感謝を忘れずに今後の勉学に活かしたいと思う。

以上、シンガポール保健医療スタディツアープログラム



VI. 信州大学—ネパール連邦民主共和国

夏期海外研修保健医療スタディツアープログラム

Shinshu University, School of Medicine, School of Health Sciences

—Federal Democratic Republic of Nepal



2016

1. ネパール連邦民主共和国の概要

1) 一般情報

1. 面積 14.7 万平方キロメートル（北海道の約 1.8 倍）
2. 人口 2,649 万人（2011 年、人口調査） 人口増加率 1.35%（2011 年、人口調査）
3. 首都 カトマンズ
4. 民族 パルバテ・ヒンドゥー、マガル、タルー、タマン、ネワール等
5. 言語 ネパール語
6. 宗教 ヒンドゥー教徒（81.3%）、仏教徒（9.0%）、イスラム教徒（4.4%）他
7. 国祭日 5 月 28 日（共和国記念日）
8. 通貨 ネパール・ルピー
9. 識字率 65.9%（2011 年、国勢調査）
10. 略史

1769 年	ブリトゥビ大王による国家統一
1846 年～	ラナ将軍家による専制政治
1951 年	王政復古
1956 年	日本・ネパール外交関係樹立
1990 年	民主的な新憲法導入
2007 年 1 月	暫定憲法成立
2008 年 5 月	制憲議会発足

11. 政体 連邦民主共和制

12. 内政

1996 年よりネパール統一共産党毛沢東主義派（マオイスト）が武力闘争を行い、政情不安定が続いていたが、2006 年に包括和平が成立し、2008 年には制憲議会選挙を実施。制憲議会初会合では、王政が廃止され、連邦民主共和制に移行することが決定された。その後、制憲議会での憲法策定作業が難航し、2012 年 5 月 27 日、任期内に憲法が制定されないまま制憲議会が解散。2013 年 11 月 19 日、憲法制定のための議会再選挙が実施され、2014 年 1 月、議会が開会し、同年 2 月にスシル・コイララ・ネパール・ कांग्रेस党党首が首相に選出され、同月 25 日にコイララ首相率いる第 1 党ネパール・ कांग्रेस党および第 2 党共産党 UML による連立内閣が発足した。

参考資料 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/data.html#section1>



2) 主な研修エリア

カトマンズ、パタンを含むラリトプール郡

(主にテチョー村、ダパケル村、スナコチ村、チャパガウン村)。

2. 保健医療スタディーツアープログラムの概要

1) 目的

異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療者としての態度を涵養する。

ネパール、カトマンズ市内の保健・医療現場の見学および日本人とネパール人により運営実施されている NGO 活動（ネパール歯科医療協力会）の見学や体験から、開発途上国の保健医療の現状を理解し、将来国際保健・医療を担うことのイメージを広げる。

2) 目標

1. 異なる医療システムのもとでの協働のあり方を理解する。
2. 英語を使用する環境のもとで、生きた英語を修得する。
3. 他人種との交流を通して、異文化理解の一助とする。
4. 国際人としての態度を自ら育てる。

3) 研修期間

平成 28 年 8 月 24 日～9 月 1 日 (9 日間)

参加者出国日 H28 年 8 月 25 日

参加者帰国日 H28 年 9 月 1 日

現地活動期間 H28 年 8 月 25 日 ～ H28 年 8 月 30 日 (5 日間)

4) 主な研修先

NGO 活動先の テチョー村、ダパケル村、スナコチ村、チャパガウン村

GRANDE INTERNATIONAL HOSPITAL

ANANDADAN HOSPITAL (Leprosy's hospital)

5) 参加人数

看護学 1名 (4年生1名)
理学療法学 1名 (3年生1名)
計 2名

6) 担当教員

引率：奥野ひろみ 教授
国内・学内サポート：国際交流委員会

7) 研修費用

①研修費用概要

渡航費用 (往復航空運賃)	約 86,000 円
羽田空港往復	約 13,000 円
宿泊・食費・ネパール内移動費	約 45,000 円
保険料	約 4,300 円
緊急事故支援システム (JCSOS)	約 3,000 円
ビザ代	約 2,500 円
計	約 153,800 円

②研修支援

NGO から活動費および会議費 (ネパールメンバーとの会議・食事会費など) の支援をうけた。

8) リスク管理体制

平成 23 年度からは、信州大学が正会員となっている特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会 (The Japanese Council for the Safety of Overseas Studies; JCSOS) の緊急事故支援システムに加入し、研修中の不慮の事故に対するリスク管理体制を強化した。本年度も当支援システムに継続して加入のうえ、プログラムを実施した。加えて、学生・教員全員が同じ旅行保険に加入した。

3. 研修プログラムの詳細

1) 研修先の概要

①Grande International Hospital

ベッド 200 床 ヘリポート完備の最先端の病院。14 階建て 0 階にリハビリ室、1~4 階が外来、5~10 階が病棟、10 階に ICU、健康診断も実施。今までタイやインドなどで治療を受けていた富裕層をターゲットにしている。2015 年からは一般人向けの病棟 (Bed 約 30 床) が開設された。大部屋で 1 泊 500Rp と一般人も利用しやすい価格帯となっている。治療をするスタッフには差がない。

②ANANDADAN HOSPITAL (Leprosy's hospital)

レプロシーは治療をすれば治る病気であるが、数十年前までは差別され隔離されていた。こ

の病院でレプロシーの専門的な治療が行われている。またPTによるリハビリが行われており、患者にあった義足が作られていた。ベッドは80床。手術室、分娩室、検査室などがある。58年前に設立された病院であるが院内の清潔が保たれ、患者情報もきちんと整理されていた。外来ではレプロシーだけでなく、様々な領域の診察がされている。患者の診察料は無料であり、医療費の多くがオーストラリアやUKをはじめとする国外からのミッションから支援を受けている。

③NGO活動先のテチョー村、ダパケル村、スナコチ村、チャパガウン村

ネパール歯科医療協力会（福岡）が1990年より現地NGO（ネパール結核予防協会、ネパールWell-being）と協力して協力活動を展開している村である。

当初は、歯科治療の協力を行っていたが、ネパールにも歯学部ができ多くの歯科医師が輩出されるようになった。そこで2000年ごろより治療から予防活動へと活動の移行が始まった。予防歯科のプログラムは小学生、中学生を対象としてのフッ素洗口、ブラッシング指導の実施を行なっている。このプログラムは学校の教員が研修を受け自分の学校のプログラムを展開している。母子保健プログラムは乳幼児の健康のために、村のマザーボランティアとともに各地区での体重測定、栄養指導、口腔内の衛生指導などを展開している。

近年働く母親が増え、子どもを保育園へ預ける母親が多くなったため、保育園での活動を展開している。

今回学生は、3か所の保育園の4歳児5歳児を対象に、石鹼を使っての手洗いと歯みがきの健康学習会のための紙芝居の活用を考え、企画を提案しボランティアと実践をした。



Grande International Hospital



ANANDADAN HOSPITAL (Leprosy's hospital)

2) 研修日程

DATE	PLAN
24th	2000 gather at HANEDA
25th	0020 HANEDA to BKK TG661 1020 BKK to KTN TG319 1700 A meeting with Ms Sarita and Dr.Amit.
26th	1000 A meeting with mother volunteer 1130 A meeting with COHW volunteer
27th	Holiday
28th	1100 Activity at pre-school at Sunatot Village. 0931 Activity at pre-school at Tcho Village.
29th	1000 visit at Grande International Hospital 1300 Visit at Gangadari Dental clinic
30th	0900ANANDADAN HOSPITAL (Leprosy's hospital) 1100 Activity at pre-school at LeLe Village.
31th	1330 KTM to BKK TG320 2245 BKK to HANEDA tg682
1th	0630 arrival at HANEDA 0715 break up at HANADA



日本で作成した紙芝居をネパールのボランティアの皆さんに上演



屋外で小学校5年生に歯磨き指導



幼稚園での手洗い指導



幼稚園での歯磨き指導



村の 90 歳になるおばあちゃんのお祝いパーティに参加。
スパイシーなネワール料理に悪戦苦闘中！



レプロシーの病院見学で、
両手の指がなくなった女性
編み物を習い、経済的な社会
復帰を目指している。

4. 学生アンケート【2名】

参加者数	1年	2年	3年	4年
看護学専攻				1
検査技術科学専攻				
理学療法専攻			1	
作業療法専攻				

I 出発前の準備について

1. 研修プログラムへの参加動機

- ・予防医療、地域医療に興味があったから。

2. JCSOS または短期海外活動支援の補助金以外の費用の捻出

当てはまるものに○をつけてください。

- | | | | |
|------------|-----------|---------------|--------|
| 1) 家族が全額負担 | 2) 自己資金のみ | 3) 自己資金と家族の補助 | 4) その他 |
| 0人 | 0人 | 2人 | 0人 |

3. 渡航前の自己学習

- 1) 自己学習をした 2人

学習内容

- ・現地の買物のコツ(相場や値切り方など)。簡単なネパール語。チップなどのマナー。
- ・ネパールの医療体制。

- 2) 何もしなかった 0人

事前学習が必要だと思った内容

- ・らい病について。

4. 研修プログラムの説明会の時期

- | | |
|--------|----|
| 適切 YES | 2人 |
| NO | 0人 |

5. 参加申し込み締め切りの時期

- | | |
|--------|----|
| 適切 YES | 2人 |
| NO | 0人 |

6. オリエンテーションについて

1) 時期

- | | |
|--------|----|
| 適切 YES | 2人 |
| NO | 0人 |

2) オリエンテーションの内容

- | | |
|--------|----|
| 適切 YES | 2人 |
| NO | 0人 |

Ⅲ J-TAS の利用状況について

海外留学生安全対策協議会(JCSOS)が提供しているサポート(J-TAS)について、お聞きます。

- 日常生活面について相談できる「海外危機管理サポートデスク」、健康面について相談できる「海外健康電話相談サービス」について、利用の有無、利用した場合はその内容(差し支えない範囲で結構です)を教えてください。

利用した 0人
 利用していない 2人

- これらのサービスが利用できる状況があつて、良かったと思いますか？

利用できなくても問題なかったと思う 1人
 どちらともいえない 0人
 利用できる状況があつて良かったと思う 0人

*利用できなくても問題なかったと思った場合は、その理由を書いてください。

・留学といえるほどの長期間滞在してないので日常生活の相談はない。また、ネット環境もあるので日本とも連絡が簡単にとれるので健康相談も使わないと思う。国際電話を探すよりもWi-Fiの方がすぐに見つかるし気軽に使える。また、知らない人に相談するよりも引率している先生に相談する方が信用できる。

数)

V 研修コースについて

- 英語以外の授業についての満足度

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①始業時間、授業の時間について			1		1
②授業の内容について			1	1	
③授業のレベルについて			1	1	
④全体としての満足度			1		1

- 施設等の見学(体験含む)についての満足度

	非常に 不満	やや 不満	どちらとも いえない	やや 満足	非常に 満足
①見学の時間について		1			1
②見学の内容について			1		1
③見学説明のレベルについて			1	1	
④見学施設について					2
⑤全体としての満足度			1		1

1)満足度が“やや不満”または“非常に不満”だった方は、その具体的内容

2)一番印象に残った見学先

・ウィリアムパブリックスクール 一番初めにボランティアを行った幼稚園で、雰囲気や現状を知ることができたから。

・グランデ国際病院。ホテルのスイートルームのようにゴージャスな個室から、28人用の大部屋まで、患者の病状や経済力によって入院環境が様々でした。特に印象に残ったのは、患者の家族が患者の世話をするために泊まり込みで患者を支えているということで、患者家族用の簡易ベッドも1人1台ずつ用意されていたことです。日本では小児科以外ではあまり見られない光景で、家族の負担が想像できるとともに、ネパールの家族の繋がりや強さを感じました。

4. (1) 英語を使つての積極的会話

まったく積極的に 行えなかった	あまり積極的に 行えなかった	どちらとも いえない	やや積極的に 行った	とても積極的に 行った
			2	

(2) 今後、英語力アップのため、TOEIC や IELTS などの英語試験を受けようと思いますか

まったく 思わない	あまりそうは思 わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
	1	1		

5. コースを通して、よかったこと

- ・ネパールの地震の爪痕を見ることができました。また、それに付随して復興が進んでいないことや沢山の課題があることが分かりました。しかし、観光客が減ったようですが、それでも活気はあったように感じます。ただ、ニュースを見ているだけでは分からないことが実際に見て知ることのできる貴重な体験になったと思います。
- ・実際にボランティアに参加して、現地の方と交流を持つことができた。

6. コースを通して、困ったこと

- ・辛い物を食べすぎてお腹を壊したこと。定番のお土産物の相場を調べておけばよかった。コンセントの変換器が必要なかった。
- ・施設見学的时间が短かった。

7. コースについての要望

8. 研修全体に対する評価

	大変 悪かった	悪かった	どちらとも いえない	よかった	大変 よかった
①実施時期について				1	1
②期間について			1		1
③コースの構成について			1	1	
④研修先のスタッフの対応					2
⑤信州大学教官の対応					2
⑥全体としての評価					2

9. 今回の経験の意味と今後の学習・進路などへの影響

- ・日本の高い医療技術だけでなく、海外の現状にも目をむけることができました。また、医療現場や医療技術だけでなく、海外の‘看護の形’について、日本との違いを目にすることができてよかったです。日本もどんどん国際化が進んでいるので、日本で働くにしても英語を鍛えた方がいいと感じました。
- ・予防医療や地域医療に興味はあったが実際の活動に参加するのは初めてだったのでよい経験になった。それぞれの地域に合ったやり方があるということを学ぶことができた。また、日本にいたら当たり前すぎて何も感じなかったことについて考えるきっかけとなった。

5. 学生レポート

およそ1週間という短い期間であったが、私達学生は多くの異文化に触れ、日本ではできない体験や光景を目にすることができた。先進国では当たり前のことが当たり前でないという異文化体験も含めて、この旅行で体験したこと、感じたことをまとめたいと思う。

1) 施設見学

ネパールには、ヘルスポストと呼ばれる医療施設が各地域に一つずつ設けられている。医療施設といっても医師はおらず、医師補と看護師、ヘルスワーカー等が非常勤で働いていた。また、ヘルスポストは予防接種の推進や妊婦健診など、日本で言うならば保健所のような役割も兼ねていることが分かった。ヘルスポストは政府からの援助で運営されているので患者は無料か格安で利用することができるが、その設備は最低限であるため、利用しているのは主に貧しい人々であり、お金のある人々はこれから記述するような私立の病院に行くらしい。受けられる医療に貧富の差が比例することに対しては賛否両論があるかもしれないが、ネパールは国の財力も人材も技術もまだまだ発展途中であるため、全ての人々に高水準の医療を提供するのは難しく、かといって貧しい人々に合わせて全ての医療レベルを一定に下げているのは発展も難しい。むしろ私は、どんなに貧しい人達でも最低限の医療が受けられるというこのヘルスポストは、地域の人々の支えになっているのではないかと感じた。

ネパールで一番大きい病院はグランデ国際病院という私立の病院である。今回はそこで歯科医をしているアミット先生に案内していただいた。日本では、国立病院は大きくて、手厚い医療が受けられるイメージが強い。しかしネパールでは国立の総合病院よりも私立の病院の方が圧倒的に高水準の医療と入院環境が整っているらしい。今回見学させていただいた私立病院であるグランデ国際病院の特室には、シャワーに冷蔵庫付きの広いキッチン、トイレ、ソファなど至れり尽くせりで、日本でもここまで豪華な特室も少ないだろう。一方、同じくグランデ国際病院の下のグレード層の病室には28床の病室もあり、同じ私立の病院の中でさえ貧富の差は大きそうだ。ネパールの病院では、宗教や嗜好の違いから入院中の食事は3食全て患者の家族が持参することになっており、食事療法という観点はまだ薄そうである。また、入院中は昼も夜も家族が付き添い、患者の介助や世話は看護師ではなく全て家族が行ってるらしく、家族にとっても負担は軽くないだろう。看護師と患者は医療行為のみの関わりで、それでは患者の日常の動作やちょっとした変化に気づけないだろうと疑問も感じたが、退院後も一緒に暮らす家族が入院中も付き添うということは、何よりも患者の退院後のことを視野に入れた行動をとるということであり、付き添いそのものが退院指導を兼ねているととらえることもできる。病気で不安になっている患者にとって常に家族が側にいるということはとても心強く、家族のつながりの強いネパールならではの医療のあり方なのかもしれない。リハビリルームでは、物理療法や筋力トレーニングの機械は一

通りのものがそろっており、理学療法士が働いていた。手術して間もない時はベッドサイドでリハビリテーションを始めるのは、日本もネパールも変わらなかった。ネパールではこれから発展して更に車社会になっていく一方、まだ交通ルールが整備されていないため、交通事故による患者が増え、理学療法士の需要は今後ますます高まっていくかもしれない。

アミット先生が個人で経営している歯科クリニックも見学させていただいたが、アミット先生のように大きな総合病院と個人経営のクリニックと両方を掛け持ちしている医者は多いようで、この個人経営のクリニックもネパールではリッチな人向けに開業されているらしい。アミット先生のクリニックはとても清潔で、その設備も日本の歯科医院と変わりないと感じた。

最後に見学した医療施設はアナンダバン病院と呼ばれるライ病患者のための病院だった。ここはこれまでに見学してきた私立の病院や国立のヘルスポストとはまた異なり、海外のミッションによって運営されているため、食事も医療も全て無料で提供されている。アナンダバン病院には家族が同伴して滞在はしないので、ここでは退院後を見据えた療養を医療者が行っている。理学療法だけでなく作業療法も行われており、義足を用いた歩行訓練なども行っていた。見学する前は、ライ病の病院だと聞いて、もっと収容所のような場所を想像していたが、実際は社会復帰のためのリハビリテーションが行われ、看護師に編み物を教えてもらっている患者もおり、私立の病院よりもずっと医療職と患者の距離は近くて暖かいと感じた。

2) NGO のボランティア活動

今回はネパールの幼稚園と小学生を対象に、手洗いと歯ブラシの指導を行った。食事の前には手を洗う、トイレの後には手を洗う、外で遊んだあとは手を洗う、毎日歯を磨く、日本では当前のように行っていることであるが、日本の当たり前がネパールで当たり前とは限らないということを目の当たりにした。今の私達日本人が当たり前のようにしているこの習慣も知識も、家族や学校教育の中で何度も指導されてきたからなのだという事実を初めて実感した。今回は奥野先生が事前に作成した手洗いと歯ブラシの紙芝居を教材にして指導を行う予定であったが、ネパールでは一般的ではない紙芝居の使い方を指導するために、まずは学生がボランティアの人達に対して見本としてデモンストレーションを行った。その後幼稚園でマザーボランティアの方々が子供たちに対して紙芝居を行うと、珍しい紙芝居とその絵に子供たちは釘づけであり、実際に石鹸や歯ブラシを配ると、子供たちは熱心に私達の真似をしながら手洗いや歯磨きをしており、少しずついい気持ちになった。しかし、中には歯肉からひどい出血をしている子供もおり、歯みがきがあまり一般的に広まっていないネパールの現状がうかがえた。

3) ネパールの観光

休日には、NGO スタッフのサリタさんも一緒に観光に出かけた。今回行ったのは、モンキーテンプル(Federation of Swayambhu Management & Conservation)に王宮跡地(Narayanhiti Palace Museum)の見学、そしてクマリの館の参拝である。最も印象に残ったのはやはりクマリと出会えたことだろう。クマリとは、仏教徒ヒンズー教の融合したネパール独特の生きた女神であり、32の厳格な基準をクリアしたネワール族の初潮前の美しい少女から選ばれる。私達が会ったクマリは8歳の少女であり、ご布施をした後に額に赤いティカを施してもらった。その動作は決められた仕事を淡々と行っているようで、まだ幼いはずの彼女が親と引き離されて神様として祀られていることを少し不憫に思ってしまったのは私が異国の異教徒だからだろうか。

4) ネパールの人々の生活 現状と課題

ネパールの人々は基本的に時間にルーズであり、約束の時間には30分や1時間遅れ、しまいには来ないことも珍しくない。これにはネパールならではの理由があり、まず交通事情が悪く、

信号が無く、道も舗装されておらず、さらに追越しのために隣の車線や反対車線に出るのが当たり前なので思うように進めないということがある。そして郊外には時計がないため、定時を知らせる鐘を頼りに大体の時間感覚で行動しているという。今回マザーボランティアに紙芝居の指導を行う際もほとんどの人達が遅れてやってきたが、後から人が来るたびに先に来ていた人が嫌な顔一つせず同じ説明を繰り返しており、これはネパールならではの素敵な国民性なのだろう。また、座布団を譲ってもらったり、ドアを開けてもらうなど、私達を遠くから来た客人として立ててくださった。また、会話のところどころにも謙虚な表現が感じられ、日本人と似た気質もあると感じた。相手を思いやり気遣ってくれるネパールの人達の心遣いには、私達も見習うべきものがあるだろう。道を歩いていても、すれ違う人々から「ニーハオ。コンニチワ。ジャパニ？」と声をかけられ、隣人とも挨拶を交わさない日本と違ってなんて人懐こく暖かいのだろうと感じずにはいられなかった。

ネパールでは、貧富の差も大きいですが、それに比例して教育のレベルにも大きな格差がみられた。例えばアミット先生は大学を卒業し、更に海外留学の経験もある高学歴であり、ネパール語と英語だけでなく日本語も流暢であったが、マザーボランティアの人々には字を読めない人も少なかつた。リッチな家庭の親は、きっと子供に良い教育を施そうとするだろう。ネパールにはまだまだ発展の伸びしろがあるが、発展するということは同時に更に格差が広がる可能性もあるということだろう。

発展するといえば、ネパールは貧しい国という印象が強かったものの、実際に現地の人に出会ってみると、大人達は太っている人だらけで、その太り方はいわゆるビール腹のようにお腹がポッコリでた中年男性のものであった。女性たちも皮下脂肪でむちむちしている。近年でネパールの食料事情も改善され、飢えることもなくなったが、ダイエットという概念がネパールではまだ薄い。それはきっと「太っていることは富の象徴。太っている人が美しい。」という日本とは異なる価値観・美的感覚がネパールでは浸透していることや、まだ生活習慣病予防のための食生活の教育が広まっていないことによるものなのだろう。

道路事情については、ネパールの道はまだ舗装が十分ではない。更に車とバイクの交通量も多いためガスと土埃で空気は悪く、また信号も停電などの影響で機能していないため警察官による交通整理に頼っている。約束の時間に対してはおおらかなネパールの人々であるが、乗り物の運転に関してはせっかちな部分もあり、舗装された道路ではスピードを飛ばし、渋滞した道路や交差点では隣の車との距離が10cmにも満たなくなるくらいぎゅうぎゅうになるまで前に出ようと踏ん張ろうとする。横断歩道も機能していないので、道路を歩いて渡るのにもとても勇気がいる。また、愛玩用なのか野良なのか道のあちこちに犬が寝そべっており、狂犬病のワクチンも流通していないため、私も一度誤って踏んでしまった時には焦ってしまった。

ネパールは今、発展の最中にある。それに伴って法もルールも工事関係にも様々な問題が付随してきている。しかし、どんどん発展して先進国のようになることが一番というわけではない。今回の旅行で感じたネパールの人々の暖かさ、人懐っこさ、親切さはこれからも残っていて欲しいと感じた。

海外を支援するという事は、足りないものを補うだけでは続かない。海外の技術を教え、知識を教え、人々に教育を施すことで、次世代まで、最終的には自分達で知識を広められるように自立を目標とした支援が重要なのだということを今回の研修で学んだ。日本は先進国の一つではあるが、私達はそれでも狭い世界で暮らしている。ちょっと海を超えれば当たり前が当たり前でない、常識は非常識となる、一週間という短い期間であったが、そんな濃い体験をすることができた。私達の知っている世界はまだまだ狭い。この研修でほんの少し自分の見聞は広がったが、それでもまだ世界には私の知らないことだらけである。もっと、もっと色々な体験をしたい、知

りたいと感じた。今回の研修は、私が異文化への興味を持つきっかけとして、また、新しい視点を持つきっかけとして、とても充実した時間となった。そして、お世話になった奥野先生、アミット先生、サリタさん、そして私達をサポートしてくださった多くの方々にここに感謝を申し上げたい。

以上、ネパール保健医療スタディツアープログラム

【編集後記に代えて 国際交流委員会委員長】

本年度の夏季海外研修プログラムが無事終了し、報告会および実施報告書もつつがなく実施、作成されました。ネパールプログラムは現地の地震の影響で2年ぶりの実施でした。また、カーティンプログラムは例年より参加希望者が少なく、実施方法に議論がありました。回数を重ねるにつれ、学内・外の状況も変遷がみられます。これまでの資産をいかしつつ、本学科としての今後の海外研修を展開できますことを祈念しております。

最後になりますが、参加学生にとっての大きな糧となった本プログラムの実施に際して御協力・ご支援いただいた関係諸氏、保健学科同窓会および保護者の皆様に深謝申し上げます。

(平成 28 年度国際交流委員会委員長 石田文宏)



.....

「信州大学医学部保健学科平成 28 年度夏期海外研修プログラム実施報告書」

2016 年 11 月 20 日

発行責任者：金井 誠

編 集 ：平成 28 年度医学部保健学科 国際交流委員会

発 行 ：信州大学医学部保健学科

.....